

研修みずれわ

Vol. **59** 2026



平林寺(山門)

© 金鳳山平林寺

歴史探訪 第五弾

「知恵伊豆」とも称された松平伊豆守信綱の菩提寺
雑木林の広がる境内林は国天然記念物、
藁葺き屋根の総門、山門、仏殿、中門は県指定有形文化財です。



地方共同法人

日本下水道事業団

Japan Sewage Works Agency

研修センター

Contents



写真：【平林寺】山門

©金鳳山平林寺

巻頭言 3つのCH	佐々木 健	日本下水道事業団	1
新任のご挨拶と寮生活の向上をめざして	井上 剛	日本下水道事業団研修センター	2
更なる研修への取り組み	辻田 威夫	日本下水道事業団研修センター	3
研修を通じて交流を育み成長の糧となる場の創出に期待	並木 傑	埼玉県新座市長	5
技術者のプラットフォーム、羅針盤として	寺澤 薫	宮城県七ヶ浜町長	6
佐野・足利小ロマンの旅 「研修みずのわ」と足利市②	津久井 孝浩	栃木県足利市行政経営部	8
新たな研修への期待と人材育成			
「日本下水道事業団研修センターにおける人材育成と新たな研修への期待」	竹廣 喜一郎	福岡県福岡市道路下水道局	10
「人材育成の大切さと新たな研修への期待」	市川 秀利	埼玉県さいたま市建設局	12
「下水道の未来のために事業団研修への期待」	工藤 浩昭	岐阜県瑞穂市上下水道部	14
「二十五年振りの講師体験記～これまでの人付き合いに救われて～」	新井 正章	足利ガス(株)取締役総務部	16
研修講師体験記			
「外部講師としての講義への思い」	前場 勇一郎	パシフィックコンサルタンツ(株)	18
「JS研修センターでの講師体験記」	佐々木 司	日本工営(株)流域水管理事業本部	19
研修体験記			
「研修を通じて発見した日本下水道事業団研修センターの魅力」	梅川 誠	埼玉県新座市インフラ整備部	21
「日本下水道事業団研修の思い出」	山本 信夫	京都府長岡京市上下水道部水道施設課	22
「熊本地震による災害を体験し能登半島地震への支援」	鶴野 雅臣	熊本県益城町建設課	24
歴史探訪 第五弾 水とともに育まれた新座市の歴史	川端 真実	埼玉県新座市立歴史民俗資料館	26
研修生だより			
「出会いから繋がる「みずのわ」」	佐藤 瑞穂	(公財)岩手県下水道公社	28
「縁の下ならぬ土の中の力持ちになるために」	遠藤 しおり	宮城県川崎町上下水道課	29
「日本下水道事業団研修を振り返って」	渡邊 淳	静岡県掛川市上下水道部	31
「日本下水道事業団研修を振り返って」	西村 和美	三重県松阪市上下水道部北部上下水道事務所	33
「日本下水道事業団研修の体験を経て」	古里 智香	鹿児島県薩摩川内市下水道室	34
「日本下水道事業団研修を受講して得たこと」	長堂 裕也	沖縄県うるま市水道部下水道課管理係	36
【トルコへの旅】ご縁をつなぐ旅のおはなし(トルコ)	大宮司 綾	宮城県松島町会計課	38
【趣味と実益を兼ねた体験談?】			
「スーパーカップ110 MD(郵便局仕様)」	古山 淳夫	岩手県二戸市建設整備部	41
「ワクイミュージアムの夢と出会い」	大鹿 純一	日本下水道事業団研修センター	46
【雑感】大谷翔平選手を思う(完結編)	長沼 輝伸	岩手県南広域振興局土木部	48
同窓会ニュース			
宮山福会	阿部 真二	山形広域環境事務組合	52
岩手みずのわ会	長沼 輝伸	岩手県南広域振興局土木部	54
福島みずのわ会	八代 隆史	福島県郡山市都市構想部	56
福岡みずのわ会	伊藤 大剛	福岡県福岡市道路下水道局建設部中部下水道課	57
熊本みずのわ会	太田 ひとみ	熊本県熊本市上下水道局維持管理部	59
令和8年度 戸田研修(対面集合)実施計画			63
下水道技術検定 下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験について			64
研修センターの歩み			68
編集後記			巻末

巻頭言

3つのCH

日本下水道事業団

理事 佐々木 健



ど、多くの偉人が残っています。

転職や転職も「変化（Change）」の一つの事例になりますので、私もこれをきっかけにして積極的に「挑戦（Challenge）」し、下水道に係わる人材の養成を目的とした我が国随一の研修機関として、JS研修センターが全国の下水道関係者の期待に応えられる「好機（Chance）」に結びつけられるよう、努めてまいりたいと考えています。

す。さらに、埼玉県の道路陥没事故により、地下施設が大部分を占める下水道事業の維持管理の難しさと重要性を再認識させられました。これらの課題を解決し、市民生活と都市活動を支える下水道を将来にわたって持続可能で強靱なものとするためには、挑戦（Challenge）する人の力が原動力となることは間違いありません。

現在、下水道事業は人口減少や気候変動といった変化（Change）に直面し、難しい舵取りが求められています。人口の減少が進むと料金収入は減少し、人口集積を前提としている下水道の経営に影響を及ぼします。また、気候変動の影響による豪雨災害の頻発に対応するための管きよやポンプ場の機能強化や耐水化なども求められています。

ため、研修センターでは、今までもWEB研修（オンライン研修、オンデマンド研修）の導入やカリキュラムの新設などの新しい試みを積極的に取り入れてきたところですが、引き続き、社会経済情勢の変化に伴う新たな課題の解決に、人材育成の観点からしっかりとサポートできるように挑戦してまいります。

研修科目につきましては、下水道施設の整備や維持管理、企業会計などの従

昨年4月に理事（研修、国際戦略及び東日本担当）を拝命いたしました。みずのわ読者の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

私はこれまで約40年間、東京都庁に勤務しておりました。都庁では下水道局をはじめ5つの局を経験し、また、国土庁、練馬区、首都高速道路に就任していたこともあったので、転勤・異動自体は珍しい経験ではありませんが、それでもやはり、新しい職場を経験することはいつも新鮮で、刺激があるものです。

葉を聞いたことがあるでしょうか。変化（Change）、挑戦（Challenge）、好機（Chance）の3つを指し、人生やビジネスで成功するための心得として「変化に挑戦することは好機」、「自らを変え（Change）、新たな挑戦を続けていけば、必ず好機が訪れる」など、変化と挑戦を前向きに捉える考え方です。

ただその一方で、人類は進化の過程で生存確率を高めるために「現状維持バイアス」なるものが形成されているため、脳は変化を恐怖に変換して感情に伝え、

チャレンジングな行動をやめさせようとする働きがあるという説もあります。この説によると、新しいことに挑戦するよりも現状維持を選択することの方が生存本能に根ざした当然の反応であるということができるかもしれません。しかし、「現状維持バイアス」に身を委ねてしまうと人生や生活から刺激や活力が失われるだけでなく、新しいスキルを学ぶ機会を逃すなど成長機会を喪失する可能性が高くなってしまう。「現状維持は後退である」という趣旨の名言は松下幸之助やウォルト・ディズニーな

来からのテーマに加え、最新の技術動向や経営広域化、W PPPに代表される時代の変化に対応した事業運営に不可欠な要素も取り入れ、皆様のニーズを踏まえた研修内容の充実を図ってまいります。

また、管理本館棟の寮室改良工事を計画しており、令和4年度から稼働している新寮室棟と合わせて活用することで効率的な学習と交流を深められる場を提供し、研修環境の充実を図るとともに、JS研修の特徴である全国の下水道仲間と寝食を共にするなかで構築される人的ネットワークの面でも、引き続き貢献してまいりたいと考えています。

今後とも、自治体や民間企業の人材育成と技術力向上に向けて、一丸となつて取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

新任のご挨拶と寮生活の向上をめざして

日本下水道事業団研修センター

所長 井上 剛



す。

JS職員になってから研修生として、平成15年に計画設計コース「認可専攻」(2週間)、平成21年に計画設計コース「下水道におけるアセットマネジメント」(3日間)の2つのJS研修を受講しています。中堅になると研修講師として主に処理場設計Ⅱの一部を担当したこともあり、ときどき研修センターに来る機会がありました。研修生としての思い出は、前述の「認可専攻」では、比較的北日本の酒どころからの参加者が多く、毎晩地元の酒自慢で盛り上がっていました。当時は宿題も多く課せられており、それらを仕上げた

グループから少しずつ談話室(ちなみに新しい新寮室棟では談話ラウンジと呼ばれています)に集まり、午後8時ころから宴会が始まり、遅くまで飲んでいました。当時は個室と言っても4人部屋だったため、宴会がお開きになっても、個室に戻って少人数で、小声で会話しながら飲んでいた記憶があります。毎晩美酒を振舞っていたいた酒どころからの研修生の皆様に改めて感謝申し上げます。当然ではありますが翌日の午前中は調子が出ませんでした。しかしながら所長となつた現在では、当時の自分自身のことは棚上げし、開講挨拶を申し上げる際は「節度を持って生活するように」と申し上げております。執筆時点で研修センターに赴任し7か月が経過しましたが、JSの研修事

業は受託事業とは別の側面から下水道事業を支えていることを改めて実感しています。

さて、JS研修センターは国内唯一の下水道に関する専門研修機関です。その特徴は、①専門知識と実務経験を有する講師陣が講義をします。1年間で約1,800コマの講義を行っていますが、その半分はJS教授陣が担当し、残り半分は国や地方公共団体、民間企業の方々協力いただき講師をしていただいていますので、実務に寄り添った講義を提供できていると自負しています。②研修コースが下水道事業全般を網羅しており、単なる知識の習得を目的とした座学だけではなく、演習や実習、デイスカッション、施設見学等を含んだ、実務に直結したカリキュラムになっていま

計、施工管理、技術基準など、間接的な業務も含め、主に受託事業に長く携わってきましたが、研修センター勤務は初めてになりま

た。これまで機械職として設計、施工管理、技術基準など、間接的な業務も含め、主に受託事業に長く携わってきましたが、研修センター勤務は初めてになりま

す。③原則、全寮制の研修スタイルをとっており、研修生同士が寝食を共にすることで、早く打ち解け合っ

て有効な人的ネットワークが構築できます。このネットワークはそれぞれが職場に戻ってから相談し合える関係性となり後々貴重な財産になるものと考えています。

令和4年度に新寮室棟が供用開始したことで研修生の皆さんの寮生活は格段に向上しましたが、新寮室棟だけでは寮室が足りませんので、管理本館棟の3階以上の旧施設も寮室として使用していただいています。旧施設はかなり老朽化してきたことから改修工事を予定しており、すでに工事は発注しておりますが、近年の建設業界の技術者不足、急激な物価上昇などの影響により工事の契約には至っておりません。研修生からは新寮室棟と同じ環境での寮生活を望まれる要望を多

数いただいておりますので、更なる寮生活の向上を目指し、できるだけ早く改修工事を実施したいと考えています。

なお、戸田研修以外にも、地方研修やオンライン、オンデマンド研修のメニューも充実させていますのでご利用いただきたいと思いがすが、どうしても半日もしくは1日程度の座学となるため、基礎知識の修得に限られてしまいます。オンライン、オンデマンドで基礎知識を身に付けたうえで戸田研修に来ていただくと、さらに高い研修効果を得られると考えていますので、ご検討ください。

これからも下水道事業を継続させていくためには、よく言われる「人、モノ、カネ、情報」が重要になってきます。山積する課題に対処していくためには、特に「人」がしっかり力を発揮できるか否かで大きく変わってきます。そのために

は『人材の育成、技術の継承』が欠かせません。JS研修で皆さんが学んだ知識を、それぞれの事業体の業務の中でさらに育んでもらい、いろいろな課題の解決に挑んでいただきたいと思

います。もちろん、我々JSが受託建設事業を含め、いろいろな形で、お手伝いさせていただくことも可能だと思っておりますので、下水道事業について何かありましたらご相談いただければと

思っていますし、新たな施策に関する研修など、要望に応じた研修を企画していきますので、これからも多くの方々の受講をお待ちしております。

更なる研修への取り組み

日本下水道事業団研修センター
次長(兼)研修企画課長

辻田 威夫



研修参加人数の傾向

昭和48年研修開始以来、JS研修センターで学ばれた研修生数は令和6年度末

で91,121名に達しました。令和2〜3年度ではコロナ渦の影響により参加人数が大幅に減少しましたが、令和4年度からは参加人数も増加、令和6年度では全国の地方公共団体等(678団体)より延べ2,552名の職員の方がJS下水道研修へ参加いただきました。

ニーズに応えた
研修専攻及び
カリキュラム

研修生及び派遣団体のニーズをとらえた研修企画に努め、適宜、国の政策動向も踏まえながら専攻及びカリキュラム等の見直しをしています。ここでは令和7年度に見直された一部を紹介いたします。官民連携コースでは、昨年度に新設した「ウォーターPPP入門」(2日間コース)では、応募人数が定員を大幅に超えたこと、参加者よりデイ

スカッション講義の拡充に
関する意見要望が多かった
ことから、3日間コースを
年3回開催することに見直
しました。またウォーター
PPP関連専攻の拡充のため、
「ウォーターPPP導
入の準備と手続き」（3日
間コース）を新設しました。
維持管理コースでは、「空
素・りん処理のトラブル原
因と対策」を新設しました。
計画設計コースでは、「ア
セットマネジメント・ス
トックマネジメント入門」
（処理場施設編）と「アセッ
トマネジメント・ストック
マネジメント入門」（管路
施設編）を対象に、研修生
が共に考えながら制度や手
法等をより深められるよう
にグループ演習講座のカリ
キュラムを追加し、3日間
コースへ見直しました。

ニーズに応えた 多様な研修形態

最近では働き方改革や下
水道従事者職員数の減少、

または研修予算上の制約に
より、「もっと手軽な研修
も企画していただきたい」
との声を聴くことがあります。
JS下水道研修には、
「戸田研修（対面）」以外に
も、研修期間が短く、受講
料が安価な「オンライン研
修」、「オンデマンド研修」、
「地方研修（対面）」と多様
な研修形態を用意していま
す。今年度より、オンデマ
ンド研修については申込期
間の通年化を本格的に開始
しました。視聴期間は動画
のURLを発行してから8
日間、自分の都合の良い時
間帯に場所（職場、自宅）
を選ばず、また視聴期間内
であれば何度でも聞き直す
ことが可能です。地方研修
（対面）、オンライン研修に
ついては申込開始を前年度
の3月初旬（令和7年度で
は令和7年3月3日）より
始めるなど、以前より募集
期間を長く設定しました。

戸田研修（対面）は、リ
アルに研修講師の熱意や他

の公共団体の研修生との繋
がりを感じながら、実習、
演習、ディスカッション、
施設見学等により実力をつ
ける研修内容となっている
こと、また全国各地から集
まる研修生と学びや研修生
活を共にすることで、相互
の情報交換がしやすく並び
に研修後の人的ネットワー
クを広げることでもできるた
め、多くの団体から根強い
支持を受けています。戸田
研修（対面）の申込期限は
開催時期ごとに年4回に分
けていますが、申込期限後
でも教室や寮室の収容人数
等に余裕がある場合には、
「追加募集」として、募集
期間の延長対応を行うな
ど、より多くの方にご参加
いただけるよう努力してい
ます。

また、団体や各協会等が
主催する研修会へ講義内容
に応じた講師を派遣する
「派遣研修」、団体と共
に下
水道経営に関する課題に対
して、専門講師からの研修

や助言を通じ、課題解決を
図る「個別課題研修」とい
う研修形態もあります。相
談をご希望の方は、遠慮な
く研修センターへお問合せ
ください。

研修生の 体調不良時への対応

研修期間中に各種感染症
の発症等により教室での受
講が困難となった研修生に
対しては、教室での対面に
よる講義内容を別室にてオ
ンライン受講できるように
教室天井への専用カメラの
設置や貸出用PC等の整備
にも取り組んでいます。対
応可能な講義は座学のみと
なりますが体調不良となっ
てしまった場合でも、継続
受講いただけるよう努力し
ています。

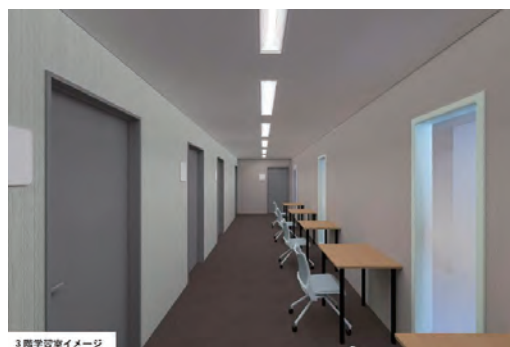
管理本館の 寮室リフォーム予定

戸田研修（対面）では、
原則、全寮制としています。
寮室は新寮室棟（令和4年

4月オープン）の部屋と管
理本館の部屋があります
が、管理本館の寮室におい
ては施設・設備の老朽化対
策と室内環境の改善を目的
に今年度改修工事の発注を



3階個室イメージ



3階学習室イメージ

予定しています。改修内容としては、寮室の全室個室化、個別空調機設置、内装リフォーム等とし、新寮室棟の寮室同等の室内環境の提供を目指しています。研修生の皆様におかれましては、工事期間中、ご不便をおかけしますが何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

メールマガジン 配信開始

令和7年7月より、研修センター独自のメールマガジンの配信を始めました。登録者には、J S下水道研修の最新情報（申込開始、臨時研修、追加研修等）を提供しています。研修情報の収集、職員の人材育成等に役立てていただければ幸いです。



メールマガジン
登録フォームの
二次元コード

研修を通じて交流を育み成長の糧となる場の創出に期待

埼玉県新座市

市長 並木 傑



日本下水道事業団が、これまで半世紀にわたって研修事業を実施し、全国の下水道事業の礎となる「ひとつくり」に多大なる功績を築き上げてきたことに深く敬意を表します。

また、私自身市長に就任以来、市政運営のかじ取りを行う上で、その一翼を担う職員の方々には、市民から信頼と好感を得られる人材になっていただくよう、まちづくりはひとつくりとあった思いの中で、5S2K「整理・整頓・清潔・

清掃・しつけ」「改革・改善」の考えを柱に、人材育成に取り組んでいる中、本市の貴重な人材への技術支援等に改めて感謝御礼を申し上げます。

新座市は、埼玉県の最南端で東京都との境に位置し、通勤通学等に便利といった都市機能が高い特長に人口減少が課題とされる中、現在も微増しながら約166,000人の市民の皆様が在住いただいております。その一方で、埼玉県

の史跡に指定されている野火止用水や境内林が国の天然記念物に指定されている

平林寺など、数多くの文化財が今も大切に継承されているほか、武蔵野の雑木林や妙音沢等の自然環境にも恵まれ、利便性と文化を兼ね備えた緑豊かなまちです。

市制といたしましては、令和7年11月1日に市制施行55周年を迎えました。シビックプライドの醸成を目的にガバメントクラウドファンディング「新座市制施行55周年記念プロジェクト

ト」を東京都に半分食い込ませたい！」を立ち上げたところ、予想をはるかに上回る御賛同を頂きました。記念式典を始めとしたイベントを通じて、多くの市民の皆様と共に、この記念すべき年を盛大にお祝いさせていただきます。

このような機会を捉えて、市民の皆様には「未来もずっと暮らしに『プラス』が生まれる豊かなまち新座」を感じていただけるよう、私自身も引き続き、更なる魅力を持ったまちの実現を目指して、市政運営に取り組んでまいります。

本市の下水道事業でございますが、昭和40年から50年代といった昭和の高度成長期に埋設された管渠の老朽化が始まり、普及促進の時代から維持管理の時代へと移り変わり、当該事業を



市制施行55周年記念式典市長謝辞



庁舎全景



宮城県七ヶ浜町
町長 寺澤

薫

よく人間の身体の老化は、足元から始まる」といわれます。「足元が揺らぐ」、「足が地につかない」といった窮地を表現する言葉もその一つなのかもしれません。また、人の体は筋肉の

取り巻く環境も今後困難さを増していくことが予想されております。また、近年の頻発化、激甚化している自然災害に向けて施設の強化の必要性も高まってきております。下水道が果たしている汚水処理や雨水排水は市民生活には欠かせない社会インフラとして、厳しい状況の中であっても、

持続可能な経営を行うとともに、新しい技術や手法を積極的に取り入れるなど、課題解決に取り組んでいかなくてはなりません。そして、このような中、日本下水道事業団におかれましては、昭和47年に創立されて以来、多くの私共の職員が研修に参加させていただき、専門知識や技術を

習得するほか、全国から参加している自治体職員との交流を通じた繋がりを創出するなど、人材育成の貴重な場となっております。職員の中には、その後、講師として逆の立場でお招きいただき、教える立場としての知識の習得や、より技術力の高い職員となる研鑽の場として、良い機会をいた

だいているものと捉えております。今後も全国の研修生との交流を育む場として、また、職員の成長の糧となる場としての研修を引き続きお願いするとともに、全国各地の下水道施設の整備に当たり、その知見を活かして御支援をいただけるよう期待とお願いを申し上げます。

結びに、日本下水道事業団の益々の御発展と全国の下水道事業関係者の皆様への御健康を祈念申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。

技術者のプラットフォーム、
羅針盤として



70%が下半身にあるといわれます。心臓に血液を送るポンプの役目は、下半身の筋肉が重要とされます。日常でのウォーキングは、気軽にできる下半身強化対策の一つとして、健康づくりには欠かせないものと受け止めております。

人間の高齢化を公共インフラに重ねて連想してみると、上下水道管は血管にも似ており、今、老朽化による症状（破損や陥没）が大きくクローズアップされております。

その契機となったのが、本年1月に起きた埼玉県八潮市の陥没事故でした。突然、県道の交差点中央部が大きく陥没し、そこにトラックが転落し、犠牲者が出た痛ましい事故は、まだ記憶に新しいところであります。

その原因は、硫化水素により下水道管が劣化して、継目などの隙間から土砂が流れ込み、長い時間の中で

下水道と道路の間に空洞が発生し、大規模な崩落事故につながりました。

この大事故は、まさに、足元がもろくなったことにより起きた事故であり、経年劣化に対するメンテナンスの重要性を一気に知らしめた事例ともなりました。

都市機能の重要な役割を担う下水道は、今や日本の都市部を中心に全国に張り巡らされ、口径の大小にかかわらず、経年劣化による下水道管の老朽度チェックは喫緊の課題となっております。

その修復や改修、大口径管の入れ替えや修復にあたっては、新設するとき以上に、より豊富な現場経験と高い技術を持つ技術者や事業者が求められることになりす。

折しも、今、建設業界は、「資材の急激な高騰」、「人手不足」、「技術者の確保」に加え、「働き方改革」も求められており、そうした

中での安全の確保と技術力の維持は至難のことです。ごいます。

一方で、デジタルの進化は著しく、人手不足などの就労環境を補うツールとしての「生成AI」の台頭は目覚ましいものがあります。今では人の1.2倍の働きをすることもいわれ、もう5年も経つと人間を凌駕し、人間の知識を確実に超えるだろうとまで言われております。

まさに、生成AIの台頭は、これからの社会のしくみを大きく変えるツールだと思えます。文理融合が進み計画づくりや抱える課題の解決において、生成AIは欠かせないものとなるでしょう。

とはいえ、反駁したくなのが我々、昭和生まれであります。生成AIは、どんな質問にも応える能力があっても、唯一できないのが職人や匠が積み上げてきた技の継承であると思いま

す。メンテナンスが喫緊の課題となる今こそ、経験のある技術者が不可欠であり、その技の継承と人材の育成が急務であります。

下水道を通じて培った経験やネットワークにより、技術力をさらに高めていくためには、人的資源、人的財産が豊かな下水道事業団の役割は不可欠であり、今後、ますます重要になってくるものと思われす。

実は今年、本町にも渡邊良彦特任教授が来訪され、まちの現状や技術スタッフの状況など、抱える課題に真摯に耳を傾けていただきました。

メールやSNS、リモートで済ませる時代に、人と人のネットワークを大切に、直接足を運んで、フェイス-toフェイスで寄り添う姿勢を今も貫いている氏は、まさに下水道事業団研修センターのコンセプトを体現するお一人であり、このきめ細やかな対応に、こ

の場をお借りし、改めて、感謝と敬意を表するものであります。

これからは生成AIの台頭など、デジタル技術は急激に進化することでしょう。そうした時代に、下水道事業団はプラットフォームとして、研修センターは、次代を担う若き技術者の羅針盤として、その存在は極めて大きく、頼もしく、大いに期待しているところであります。





研修みずのわと足利市②

「市長訪問記」

栃木県 足利市 行政経営部
 契約管財課 契約・検査担当
 検査員 津久井 孝浩



小学1年から剣道を始め、現在は教士7段になりました。3年後の8段審査に向けて日々稽古に励んでいます。

この度は、「研修みずのわ」第59号の発刊に当たり、渡邊良彦特任教授から執筆のご依頼をいただきましたことに感謝申し上げます。また、第57号では早川市長、第58号では新井都市建設部長（当時）が足利市の話題を寄稿させていただきましたことができましたが、今回3号続けたの登場の機会をいただき、感謝と話題が尽きてしまうのではないかとという不安を持ちながら執筆させていただきました。

私は平成10年4月に足利市に採用となり、「下水道建設課（当時）」に配属となりました。最初は開削工事を担当していましたが、3年を経過した頃に推進工事も担当するようになるとの指示をいただき、

平成13年度の実施設設計コース管きよ設計Ⅱを受講することとなりました。3週間の研修期間中、全国の仲間の皆さんとの熱い議論や深い懇親の場が幾度となくあり、非常に充実した研修であったことを記憶しています。また、研修に参加した際に初めて渡邊先生にご挨拶する機会をいただきました。この出会い以降、渡邊先生には現在に至るまで公私とも大変お世話になっております。

さらに、事業団研修では平成15、16年度の2年間、実施設計コース管きよ設計Ⅰの測量実習と積算演習の講師を務める機会もいただきました。受講生から講師という立場になり、事前打合せや研修準

備などに多くの時間を要したことを覚えています。「教える」ということがいかに難しいかを実感した貴重な経験をさせていただきました。

それでは足利市についてご紹介させていただきます。栃木県の南部、東京から約80kmの位置にあります。まちの中央を渡良瀬川が流れ、北には足尾山地から続く山並み、南には関東平野へと続く田畑が広がる自然豊かなまちで、現在の人口は約13万7千人です。

本市の下水道事業は、昭和39年に着手し、昭和52年には下水処理施設である足利市水処理センターの運転が開始されました。その後は下水道普及率の向上を目指して

幹線管路や面整備管路の新設工事が行われてまいりましたが、現在では既存施設の老朽化が表面化し、施設の更新などの維持管理にも取り組んでいます。

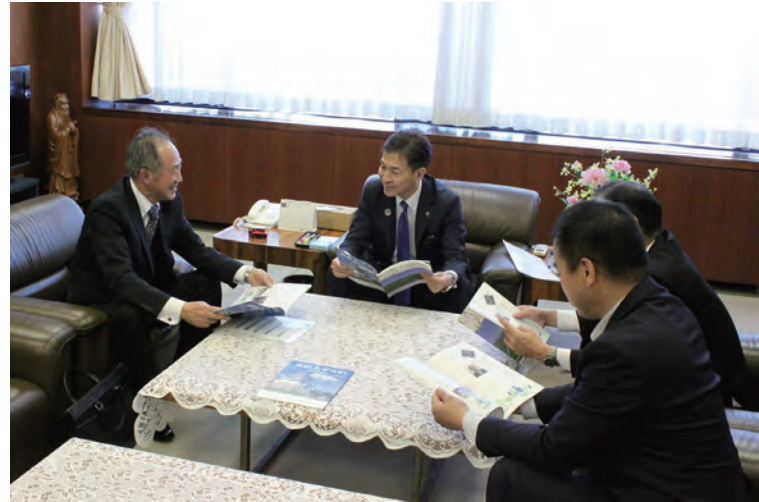
この間、日本下水道事業団の皆様には処理場建設からその後の維持管理業務、研修センターで行われる研修にと、様々な場面で大変お世話になってまいりました。

さて、「研修みずのわ」にはこれまで多くの登場機会をいただき、全国のみずのわの仲間の皆様は足利市の情報を発信させていただきました。今回は渡邊先生から早川市長へ「研修みずのわ（第58号）」をお届けいただいた際の様子を報告させていただきます。

市長訪問



研修みずのわをお届け



早川市長と懇談



研修みずのわとPR冊子

早川市長への訪問は今回が3度目ということもあり、終始和やかな雰囲気懇談が行われました。全国のみずのわの仲間の皆さんから届く同窓会ニュースの記事を読みながら、早川市長から「足利市でも「みずのわ会」が開催できるよう頑張らしましょう！」との発言もいただきました。

また、市長訪問された日が令和7年2月であったため、直前に発生した埼玉県八潮市での道路陥没事故に関することも話題となりました。インフラ施設の老朽化問題

は足利市にとっても喫緊の課題であり、限られた人員と予算の中でいかに効率的に対策していくべきか、面会時間をオーバーするまで懇談が行われました。

お届けいただきました「研修みずのわ(第58号)」は、前号と同様に市長への来客の方の目に触れるよう、市長応接室入口のテーブルに足利市をPRする冊子と一緒に置かれています。来庁された方々が手に取ってお読みいただき、大変好評をいただいております。

今回、このような機会をいただきました渡邊先生にはあらためて感謝申し上げますとともに、研修みずのわをお読みいただいている全国の仲間の皆様方にはぜひ足利市にお越しいただき、歴史と文化のまち足利、そして自然豊かなまち足利をお楽しみいただければと思います。

最後になりますが、日本下水道事業団の益々のご発展と、全国のみずのわの仲間の皆様のご活躍・ご健勝を心からお祈り申し上げます。



新たな研修への期待と 人材育成



日本下水道事業団研修センターにおける 人材育成と新たな研修への期待

福岡県福岡市道路下水道局

局長 竹廣 喜一郎



寄稿させていただくことに、大きなご縁と責任を感じております。

福岡市は人口約167万人を擁し、九州の中核都市として成長を続けており、周辺は海と山に囲まれ、福岡空港から都市中心部まで短時間でアクセスできる都市機能が中心に集まったコンパクトシティです。また、

緑化推進やArtプロジェクトなどにも取り組んでおり、都市の魅力と豊かな自然が調和した住みやすい都市としての評価をいただき人口増加率は全国の政令指定都市のなかでもトップクラスとなっております。その一方で、近年の気候変動

に伴う集中豪雨など災害リスクの高まりから、インフラの維持・強化は喫緊の課題であり、そのなかでも下水道は、公衆衛生や環境保全、さらには浸水対策や脱炭素といった多様な課題に应运えていく必要がある基盤インフラであり、市民生活を根底で支えています。

福岡市の下水道整備は、昭和5年に着手して以降、下水道普及率は99.7%に達しており、生活環境整備や博多湾の水質改善などに大きく寄与してきましたが、いま直面しているのは全国的にも問題となっている老朽化施設の更新と気候変動への適応です。特に都

このたびは、日本下水道事業団研修センターの機関誌「みずのわ」に寄稿の機会を賜り、心より御礼申し上げます。令和5年度に創立50周年の記念すべき回にも寄稿させていただき、福岡市の取り組みと日本下水道事業団の研修の意義について触れさせていただきましたが、令和7年度より道路下水道局長を拝命し、今回は事業を直接担う立場で

市型浸水被害の軽減に向けて、雨水幹線整備に加えて雨水貯留管や雨水浸透施設などの整備にあわせ、都心中心部である天神地区での浸水被害低減に総合的に取り組んでいます。また、処理過程で発生する消化ガスから水素を製造・供給するプロジェクトを他部局と連携して進め、脱炭素化とエネルギー地産地消を両立させています。さらに、アジア都市との協力による国際貢献も積極的に展開し、アジアのリーダー都市を目指して福岡市の経験や技術を海外に広げています。

一方で国の動向に目を向けると、令和6年度から国土交通省による水道行政の一体化・移管が行われ、老朽化したインフラの更新や耐震化が求められるなか、断水や浸水が同時発生する複合災害において、総合的な組織体制をもって応急復旧を一元的に行うなどの取り組みの強化が進められてい

ます。また、事業の効率化や高度化を目的として、DX導入によるスマート管理や官民連携によるウォーターPPPの推進などスケールメリットを活かした取り組みなどが掲げられています。

しかし、いかに制度や技術が整ったとしても、それを実現するのは「人」であり、その確保と育成こそが最大の課題と言えます。現在、建設業全般において人材不足が深刻化しており、技術者の高齢化や若手入職者の減少が進んでいます。下水道分野も例外ではなく、管路更新や処理場設備改修といった現場を担う人材が不足し、工事発注や維持管理にも大きな影響を及ぼし始めています。技術者においても、新設工事が減少する中で経験の幅が狭まり、特に専門分野における基礎的技術を含めた技術継承が課題となっています。

このような状況だからこそ、日本下水道事業団研修センターの研修は一層重要性を増しています。昭和48年以来、福岡市職員は延べ200名以上が受講し、制度や最新技術を学ぶとともに、全国の仲間との交流を通じて下水道関係者のネットワークを形成してきました。こうした学びと絆は、現場で不足する経験を補い、組織を越えた人材の底上げにつながっています。これまで福岡県や福岡市をはじめ近隣都市などと共同で渡邊良彦先生を囲んで継続してきた「福岡みずのわ会」もまた、研修OBや県内自治体を結ぶ貴重な人材交流の場であり、人材不足を補う広域的な知見の共有に資する取り組みであると考えております。

今後とも、気候変動対応、施設更新、カーボンニュートラルの推進など下水道事業の課題は複雑化・多様化していきます。そのなかで、建設業全般に共通する「担

い手不足」を克服するには、ICT技術の導入やDX化を図っていくとともに、自治体や日本下水道事業団、民間が一体となった人材育成及び技術継承が不可欠であると考えており、福岡市としても、引き続き研修を積極的に活用しつつ、地域を越えた連携のなかで人材育成に取り組んでまいります。

最後にありますが、福岡市道路下水道局として、市民の安全・安心な暮らしを守る使命を果たすとともに、持続可能な下水道事業を築いていくためにも、日本下水道事業団研修センターのさらなる発展と、研修を通じて育つ人材が建設業界全体を支える力となることを心より期待しています。

最後にありますが、福岡市道路下水道局として、市民の安全・安心な暮らしを守る使命を果たすとともに、持続可能な下水道事業を築いていくためにも、日本下水道事業団研修センターのさらなる発展と、研修を通じて育つ人材が建設業界全体を支える力となることを心より期待しています。

最後にありますが、福岡市道路下水道局として、市民の安全・安心な暮らしを守る使命を果たすとともに、持続可能な下水道事業を築いていくためにも、日本下水道事業団研修センターのさらなる発展と、研修を通じて育つ人材が建設業界全体を支える力となることを心より期待しています。

このように状況だからこ

そ、日本下水道事業団研修センターの研修は一層重要性を増しています。昭和48年以来、福岡市職員は延べ200名以上が受講し、制度や最新技術を学ぶとともに、全国の仲間との交流を通じて下水道関係者のネットワークを形成してきました。こうした学びと絆は、現場で不足する経験を補い、組織を越えた人材の底上げにつながっています。これまで福岡県や福岡市をはじめ近隣都市などと共同で渡邊良彦先生を囲んで継続してきた「福岡みずのわ会」もまた、研修OBや県内自治体を結ぶ貴重な人材交流の場であり、人材不足を補う広域的な知見の共有に資する取り組みであると考えております。

今後とも、気候変動対応、施設更新、カーボンニュートラルの推進など下水道事業の課題は複雑化・多様化していきます。そのなかで、建設業全般に共通する「担

い手不足」を克服するには、ICT技術の導入やDX化を図っていくとともに、自治体や日本下水道事業団、民間が一体となった人材育成及び技術継承が不可欠であると考えており、福岡市としても、引き続き研修を積極的に活用しつつ、地域を越えた連携のなかで人材育成に取り組んでまいります。

最後にありますが、福岡市道路下水道局として、市民の安全・安心な暮らしを守る使命を果たすとともに、持続可能な下水道事業を築いていくためにも、日本下水道事業団研修センターのさらなる発展と、研修を通じて育つ人材が建設業界全体を支える力となることを心より期待しています。



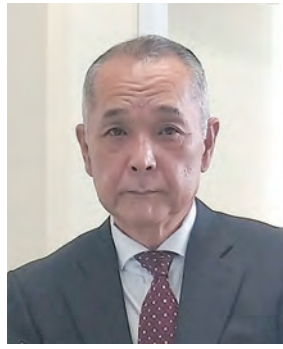
水素ステーション

人材育成の大切さと 新たな研修への期待

埼玉県さいたま市建設局

理事（総合調整担当）

市川 秀利



「研修みずのわ」第59号の発刊にあたり、寄稿の機会を与えていただきまして、感謝申し上げます。

さいたま市は平成13年5月1日に浦和市・大宮市・与野市の3市が合併して誕生し、平成15年4月1日には全国で13番目の政令指定都市となりました。さらに平成17年4月1日には岩槻市と合併し、現在の人口は約135万人となっています。

当市の下水道事業は昭和28年に大宮駅周辺の市街地を対象に事業を開始し、昭和41年に終末処理場の一部が完成して単独公共下水道として供用を開始しました。その後、昭和47年に埼玉県荒川左岸南部流域下水道の終末処理場の一部が、昭和58年には埼玉県中川流域下水道の終末処理場の一部が完成し、流域関連公共下水道での整備を進めてきました。下水道普及率は令和6年度末で95.3%に達しています。

現在の下水道事業は、長期計画である、「希望つなぐ下水道プラン2030」を軸に、下水道事業中期経



さいたま新都心

営計画に基づいて、浸水対策事業、老朽化対策事業（耐震化を含む）、汚水整備事業の三つを柱に推進しています。

私と下水道との関わりについて少し述べさせて頂きますが、私は平成元年に旧大宮市役所に入庁し、最初の配属先が下水道課でした。そこで下水道の計画や施工管理を、厳しい先輩方からのOJTで学び、下水道の基礎を覚えていただきました。また、日本下水道事業団の研修では「管きょⅡ」に参加し、全国から集まった同志とともに知識と見聞を広げることができました。既に約30年が経ちますが、当時の同室の皆さんとの楽しい時間は今でも良い思い出となっています。

以降の配属先も下水道関連が多く、公務員生活37年間のうち下水道にかかわった期間は29年になります。微力ながら下水道行政の運営に貢献させていただいて



武蔵一宮氷川神社の大湯祭 (十日市)



さくら名所百選の大宮公園の桜

きたところす。

入庁当時と現在とでは下水道を取り巻く状況は大きく変化しました。気候変動に伴う大雨や大規模地震などの自然災害が全国的に多発しているほか、老朽化した下水道施設に起因する大規模な道路陥没事故も発生しており、施設の改築需要が高まっています。将来人口の減少、節水型機器の普及や生活様式の変化による下水道使用料収入への影響

など、経営面でも年々厳しさが増えています。こうした課題に対応し、将来にわたって安定した下水道サービスを提供するため、当市では平成26年度からアセットマネジメントを導入し、建設・改築・維持管理・経営・人材など事業全体の資産を効率的に管理しています。特に人材育成には力を入れており、定期的な研修会の開催や参加者の自主性を尊重した共同研究などを通

じて、下水道技術者の育成に努めています。松下幸之助氏の言葉「企業は人なり」を引用するまでもなく、下水道事業を支える「人、モノ、金」のうち、最も重要なのは「人」であると考えています。ストックマネジメントの観点から見ると、老朽化が進む下水道施設の維持管理には、機械・設備の保守技術や水質・衛生管理、計画的な維持更新、災害時の迅

速な対応など、多様で高度な専門性が求められます。安全管理・環境対策・法令遵守といった総合力が不可欠であり、人材の質が低ければ点検の見逃しや対応の遅れが発生し、市民生活に直接影響を及ぼします。一方で、継続的な研修と実務経験の機会を確保すれば予防保全の精度が高まり、事故やトラブルを未然に防ぎ、費用対効果の高い運用が可能になります。また、育て上げた人材が次世代を育てる連鎖も重要であり、こうした世代間の技術継承が下水道事業の持続可能な安定経営に寄与するものと考えています。

将来的な人口減少に伴い下水道事業に従事する職員数が減少する可能性や経費削減の観点から、当市でも管路施設のW-PPP導入を検討しています。しかし、業務を委託することにより、職員の技術継承や長年にわたる委託業務の管理手法など、多くの課題が生じます。今後、包括民間委託やW-PPPなど外部委託が増加する中で、国の動向や先進事例等を集積し、有事に委託事業者が機能しなくなった場合のBCP(事業継続計画)の整備や、職員の技術継承につながる各施設に特化したマニュアルや手順書の作成方法などを研修カリキュラムにぜひ追加していただきたいと考えています。

W-PPP関連の研修は一例にすぎませんが、デジタル化やICTの活用など時代の潮流を的確に捉え、下水道事業の現在と将来につながる充実した研修を今後も期待しています。

末筆ながら、長年にわたり全国の下水道技術者の技術力向上にご尽力されている日本下水道事業団研修センターの益々のご発展を心より祈念しております。

り、職員の技術継承や長年にわたる委託業務の管理手

新たな研修への期待と人材育成 「下水道の未来のために事業団研修への期待」

岐阜県瑞穂市上下水道部

部長 工藤 浩昭



この度は、「研修みずのわ」第59号の発刊、誠にありがとうございます。今回は「研修みずのわ」への寄稿は2回目になり大変光栄に思っております。

今回は「新たな研修への期待と人材育成」について渡邊特任教授から依頼があり、これまで宿泊での事業団研修に5回お世話になっていることもあって快くお受けさせていただきまし

た。

私が初めて事業団研修に参加させていただいたのは平成9年5月の「実施設計コース管きよI」で、その時のコース担当が渡邊助教授(当時)でした。あれから28年も経過しているのに、変わらず第一線で活躍されている渡邊特任教授には頭が下がる思いです。その間、全国の下水道事業に携わる職員の育成にご尽力され、ここ数年は、当市の職員も毎年お世話になっております。実は、私も平成10年から27年間上下水道事業に携わらせていただき、計8回の事業団研修にもお世話になり知識や技術

の習得を行うことができました。この寄稿により改めて事業団研修の必要性を感じているところです。

さて、下水道事業は、施設の老朽化、職員数の減少、人口減などに伴う使用料収入の減少など課題が山積しております。

その中でも、近年は特に管路施設の老朽化や耐震化の対策が最も重要ではないかと感じております。下水処理施設は目や耳で確認できる部分もありますし、職員やメンテナンス会社が常駐している場合も多く、官民連携も進んでおり比較的予防保全に努めているケースが多いと思います。しか

し、管路施設はほとんどが地下に埋設されており積極的に調査・点検を行わないと老朽化や劣化の状況に気が付きにくい施設であります。また、管路施設は、ほとんどが公道に埋設されていることから、万が一の場合大規模な公衆災害を引き起こすこととなります。

管路施設の老朽化対策は10年程前から少しずつ始まってきており、点検・調査、改築更新などを一括で

行う「管路包括」の事例も増えてきています。しかし、全国的にはまだまだ、進んでいないのが現状だと感じています。管路施設の点検・調査の必要性や方法については、下水道事業に携わる職員の意識や知識の向上が必要で、管路施設の老朽化や耐震化に特化した研修や講習への参加が重要だと考えています。そんな中、事業団研修には「管きよの維持管理」や「管きよ



H10.10.21管きよII

点検・調査」、「ウォーター PPP」などのコースがあります。事業団研修に参加したことがある受講生のほとんどが「知識の習得や研修生同士のつながりなど、大変ためになった」と感じていると思います。そうした中、地方共同法人となつて以降、受講料の改定が行われ各自治体では予算の確保が難しくなっているのではと感じています。先ほど述べたとおり、管路施設の老朽化や耐震化対策の起点は調査・点検で、すでに下水道事業の中で最も重要な部分になっていると思っております。そのため、全国の多くの自治体職員が事業団研修に参加できるように、管きよの維持管理系のコースに限って申し込みしやすい受講料とし、下水道の未来のために「新たな研修と人材育成」を事業団研修が担っていただけることを期待しています。

すので、当市の下水道について紹介させていただきます。全国的に下水道施設は、維持修繕や改築更新の時代となつてきていますが、当市では、令和2年度から新規の単独処理区に着手しています。現在、下水処理場を新たに建設しており、令和9年度の供用開始を目指し、日本下水道事業団東海総合事務所にて建設を進めていただいております。この下水処理場は、日本下水道事業団初となるECI方式（技術提案・交渉方式（技術協力・施工タイプ））で発注されています。なぜECI方式なのかですが、新設処理場であることから、すべての可能性を否定しないイニシャルとランニングのコストを考慮した水処理や汚泥処理方式の提案が行えるようにという趣旨の下、ECI方式が採用されています。

管路施設についても新規で整備しており、新たに供用開始した区域で課題となる下水道への接続を促進するため、管路工事前や工事中から住民に接続のあつせんを行う「水洗化促進業務」を管路工事が実施しています。また、工事会社のモチベーションを維持するために供用開始1年後、市が想定した水洗化率を上

回った場合、想定を上回った1件当たり5万円をインセンティブとして工事会社に支払う内容とする取り組みも行っています。最後になりますが、これらの新たな取り組みは5回にわたる宿泊での事業団研修でコース担当や講師、受講生との繋がりがや刺激が

あつたから行えていると思つています。すでに多くの課題を抱える下水道事業において、事業団研修が担う役割は益々大きくなつてきており、これからも日本下水道事業団が発展し活躍する団体となることを心よりお祈り申し上げます。



アクアパークみずほ完成イメージ図

【JS研修参加履歴（工藤浩昭）】

①平成9年5月13日～5月30日	実施設計コース管きよⅠ（第1回）
②平成10年10月12日～10月30日	実施設計コース管きよⅡ（第7回）
③平成16年8月25日～9月3日	計画設計コース認可（第2回）
④平成18年8月2日～8月4日	計画設計コース設計専科（新しい政策課題へのチャレンジ）
⑤平成21年7月14日	下水道経営セミナー（公営企業会計）
⑥平成25年10月1日～10月4日	実施設計コース管きよの液状化対策（名古屋）
⑦令和元年6月7日	下水道経営セミナー（企業会計-移行目の履行確認-）
⑧令和2年2月13日	下水道経営セミナー（初めての決算書作成）

※①、②は財団法人岐阜県建設技術センター職員として参加

二十五年振りの講師体験記 〜これまでの人付き合いに救われて〜

(元) 栃木県足利市都市建設部長

(現) 足利ガス(株)取締役総務部

部長 新井 正章



昨年の夏ごろだったでしょうが、これまで大変お世話になっている日本下水道事業団研修センターの渡邊良彦特任教授から「今年で定年だよ、時間もできることだから研修センターの講師をお願いしたいんだけど、以前やったことあるし！」とお話をいただきました。その時は、以前やったといっても二十五年以上

前のことで、それ以降下水道の仕事からは離れてしまっており、定年延長（私の場合は二年）の希望も出しているということ、お断りしようと思っていました。しかし、その後もお願いは続き、これまでの様々つながりもあったことから、私のこれまでの経験が少しでもお役に立つのであればという思いから、お引き受けすることとしました。

そのような中、事情があつて私は定年延長をせず令和七年三月で市役所を退職し、四月からは市内の民間会社に勤務することになりました。退職後は時間ができると思いきや、これまでと同じ月曜日から金曜日までフルタイムでの勤務のほか、月に一度の土曜日出勤、数か月に一度の宿日直がある勤務状況で以前よりも忙しい生活が始まりました。

民間会社に移ったものの研修の講師は引き受けてしまっていますので、会社に事情を話し休暇を取得して講師を務めることとしました。会社へは、「日本下水道事業団とは」から始まり、「そこでなぜ私が講師をするのか」など、全く下水道とは縁のない方への説明と

なりました。そして、担当する九月の研修日が近づき、八月にはコース担当の青木教授が私の会社までお見えになり、事前の説明をしていただきました。それまでは、新しい職場で環境の違いに毎日戸惑っていましたがいよいよ講師をする日が近づいて来たという緊張感が高まってきました。その緊張感をさらに高めたのが、この「研修みずのわ」の執筆依頼です。これもまた渡邊特任教授からの依頼でした。原稿を書くことを考え

て研修に臨まなければならぬと私の中で不安な気持ちが高まってしまうまま刻々と研修の日は近づきますが、毎日新しく覚えるしなければならないことばかりで、事前の予習がなかなか満足にできないうちにその日となってしまいました。

研修日の前日に、仕事が終わってから研修センターに向かい前泊をさせていただきました。そして、いよいよ当日です。私の担当は、「実施設計コース管きよ設計Ⅰ」の「現場踏査及び設



市の木：イチョウ



市の花フジ：あしかが（フラワーパーク）



市の鳥：カルガモ

計図作成実習」です。私の担当するコースには私の他にお二人の講師がいましたが、そのうちの一人は以前からお付き合いをさせていただいている元山形県米沢市役所の石山さんでした。そのため、とても心強く安心した気持ちでその日を迎えました。また、研修当日の朝食会場でもびっくりすることがありました。以前からお付き合いをしている元栃木県佐野市役所の片柳さんが食事をしていたので。来ていることを知りま

せんでしたので、なんだか不安な気持ちが薄らいできました。不慣れた環境の中でも知っている方に会えるだけで気持ちが楽になりました。一日目の現場踏査は、こんな日に現場に出るのかと思うくらい土砂降りの中、二十五年前と同じ住宅街を研修生と歩きました。全員、靴の中までびしょりになり、早々に研修センターに戻り、設計図の作成を始めました。みなさん、次の日の昼までには図面作成を終わらせなければならぬため、夜遅くまで真剣に取り組んでおり、私たち講師も一緒になって頑張りました。その結果、次の日には全員が目標とする状態にまで図面を仕上げる事ができました。やさしい研修生と頼りになる石山さん、青木教授などたくさんの方のおかげで、ぎこちないながらも何とか役目を終了することができました。



本体工事中

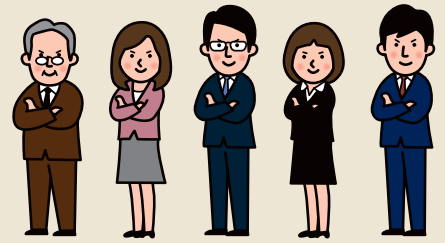
二十五年ぶりの不安だらけの講師体験でしたが、私に白羽の矢を刺した研修センターの渡邊特任教授、コース担当の青木教授、一緒に講師をしてくださった石山さん、朝食会場でお会いした片柳さんたちのおかげで、少し楽な気持ちで役目を果たすことができました。久しぶりの研修センターでしたが、これまでの

人付き合いがあったおかげで救われました。不安な状況の中で知っている方に会える、知っている方がいるということは、緊張感が薄れ不安が取り除かれます。講師としては、まだまだ未熟で足りないことだらけではありますが、久しぶりの緊張する体験をさせていただき、私としてもたいへん勉強になる出来事となりました。



中橋移設中

今回の講師体験にあたり、私にかかわったすべての方に感謝したいと思います。ありがとうございます。話は変わりますが、会社の中で下水道のこと、日本下水道事業団のことなど、少しずつ広めていきたいと思っています。



研修講師 体験記

外部講師としての 講義への思い

パシフィックコンサルタンツ(株)
内部監査室

室 長 前 場 勇 一 郎

この度、渡邊先生よりお電話をいただき、今回の執筆のご依頼を頂戴しました。突然のご連絡に少々驚き

ましたが、日頃より大変お世話になってる渡邊先生からのご依頼とあれば、迷うことなくお引き受けすることにいたしました。このような貴重な執筆の機会をいただき、改めて心より御礼申し上げます。

はじめに、私のこれまでの業務経験について簡単に触れさせていただきます。私は1994年に入社し、下水道管きよの実施設計業務に従事するところからキャリアをスタートしました。担当した設計は多岐にわたり、シールド工法、推進工法、開削工法など、様々な工法を選定した設計を経験してきました。設計業務

を通じて、現場の課題に向き合いながら、技術的な知見を深めていく日々でした。

入社翌年に発生した阪神・淡路大震災を契機に、耐震設計や総合地震対策計画の策定など、下水道施設の耐震化に深く関わるようになりました。さらに、2011年の東日本大震災では、東北地域の復興支援に携わるとともに、液状化対策委員会にも参画し、地震による被害の軽減に向けた技術的支援を行いました。現地での調査や対策検討を通じて、災害に強いインフラの重要性を改めて実感した経験でした。

その後は、下水道施設の長寿命化対策や下水道台帳システムの構築、更生工法の実施設計などを通じ

て、改築・更新および維持管理分野に幅広く取り組んでまいりました。2022年からは内部監査室に異動

し、現在は監査業務を通じて、組織の健全な運営の維持・向上に努めております。直接的な下水道業務からは離れましたが、これまでの経験は今も私の中で大きな財産となっております。

日本下水道事業団の研修講師としては、2012年より務めさせていただいており、今年で13年目を迎えました。長年にわたり講師としての機会をいただいていることに、深く感謝しております。

私が担当している講義は、「管きよの基礎」「管きよ設計Ⅰ」「管きよ設計Ⅱ」といった、管きよ設計の基礎

的な内容が中心です。受講される多くの方は、主に下水道課に配属され、たばかりの職員の方々であるため、専門的な内容をできるだけわかりやすく、丁寧にお伝えすることを心掛けています。

近年は新設事業が減少傾向にあり、代わって耐震化や改築・更新が事業の中心となりつつあります。こうした背景を踏まえ、講義では自身の経験をもとに、液状化対策の重要性や、地震に弱い卵形管への対応、マンホールの浮上対策など、実務に直結する内容を交えて説明しています。管種の説明においては、更生工法の設計に必要な既存管の



諸元情報など、改築・更新に役立つ知識を加えるなど、実際の業務で直面する課題に対応できるような視点を取り入れています。こうした内容は、受講生が現場に出た際に「講義で聞いたことが役立つ」と感じていただけるよう意識して構成しています。

講義の最後には、塩化ビニル管の構造計算演習を行っており、条件設定から荷重の算出、応力の算出、安全性の確認まで、構造計算の基礎を体系的に学べる内容となっています。電卓を用いた計算に不慣れな受講生も多く、戸惑われる場面もありますが、演習を通じて構造計算の本質を理解する貴重な機会となっていると感じています。理論と実務のつながりを実感していただければと思います。ながら、毎回講義に臨んでいます。現在は下水道事業からは離れた業務に従事しておりますが、研修講師としての活動は、私自身にとっても非常に有意義な経験であり、技術者としての原点を再確認する貴重な機会となっています。これまで培ってきた管きよ設計に関する知識や経験が、少しでも受講生の皆様のお役に立てるよう、今後もできる限り講師

としての活動を継続していきたいと考えております。

技術の継承は、下水道事業の持続的な発展に欠かせません。日本下水道

道事業団研修センターが、今後も現場で活躍する次世代の技術者育成に尽力されることを願い、さらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。

JS研修センターでの 講師体験記

日本工営(株)流域水管理事業本部
水環境事業部上下水道部

課長 佐々木 司

この度は「研修 みずのわ」への寄稿の機会を頂き、誠にありがとうございます。ごさいます。

私は令和4年度から「管きよ設計Ⅰ（土留め工の工法選定）」を担当させて頂き、今年度から、「管きよ設計Ⅱ（土留め工の設計演習）」を担当させて頂いております。

生まれは宮城県の仙台市で、幼少期の広瀬川での川遊び体験から水を

きれいにする仕事に就きたいと考えて、上下水道技術者として働き出して19年目になります。

さて、研修を実施させて頂く中で、管きよ設計を受講される方は、下水道部署に新しく配属された方や、経験の浅い方が多くおられるとお聞きしております。本稿では、新しい分野の勉強を行う際の、私なりのコツを2点ご紹介できたらと思います。

① 『対比関係』を意識しよう！

管きよ設計における土留め工のテキストの基本となっているのは、日本道路協会の「道路土工 仮設構造物工指針」ですが、設計に必要な順番で書かれているため、初学者が最初から読んでも、なかなか頭に入ってきません。本設構造物で参照する同じく日本道路協会の「道路橋示方書」や土木学会の「コンクリート標準示方書」も同様で、難解な文章が続くので、挫折した経験がある方もいらっしゃるかもしれません。（私



は何度も挫折しております。)

そんな中、J S 研修センターのテキストは、体系的に書かれているため、大変読みやすいのですが、それでもたくさん専門用語や工法、計算式が出て来て、辛いと思われる方もいらっしゃるかもしれません。

そんな時は、『対比関係』を意識して情報を整理していくことがオススメです。「対比関係って何?」と思われる方も難しく考えることはありません。要は、2つの新しい言葉が出てきたら、違いにだけ着目してイメージしていくのです。

例えば、講義の中では、「粘性土と砂質土を混同しないように!」というお話をさせて頂きましたが、「粘土は粒子が小さい、砂はつぶつぶで粒子が大きい」や、「粘土は地下水を通さない、砂は水がつうつ」といったイメージが出来れば十分です。これだけで、ボーリング?ヒールリング?といった難解なカタカナも、少しずつ整理されて、だいぶ頭に入ってきてやすくなります。

この対比の考え方は、他の実務でも応用できますので、「開削工法と推進工法」「土木基準と建築基準」など、頭がこんがらがったら、ぜひ

「違い」に着目して考えてみて下さい。

② 誰のためにやるのか考えよう!

毎年の講義の中でお話しさせて頂くのですが、「下水道の宿命として、必ず近隣には住民の方が住んでいらっしゃる必要があります。住民の方がいらっしやなければ、下水道は必要ないからです。ですので、管きよ工事は出来るだけ短時間で完了し、少しでも早く道路を開放してやらないといけません。そのための仮設設計は、安全性が確保できるぎりぎりを攻めて、極力工期が短くなる工法を選定しなければなりません。止水性が高く剛性が高いからと言っていつも鋼矢板の打込み工法を選定するわけにはいきません。」というお話をさせて頂きます。こうしたお話をすると、受講生の皆様は、「うん、うん」とうなずいて納得されたアイコンタクトをして下さるので、いつも驚きと、感心を持って受け止めています。

オーバーだなあ、と思われるかもしれませんが、普段、設計をしているコンサルタント側の立場で考えると、「住民の方も補修工事に協力しないと、下水道をいざれ使えなく

なって困るのは住民の方なので、協力して当然では?」という考えが浮かびがちで、なかなか素直にうなずくことが出来ないものなのです。

皆さんが、「技術の先には、住民の生活がある」という行政サービスの在り方を普段から意識して業務に当たられていることが良く分かり、素晴らしいな、と感じられる瞬間なのです。

このように、皆さんは、誰のために下水道の知識と技能を身に着けようと思われているか、既に自分の中に答えを持っているので、工事の施工方法で煮詰まったら、使用する住民の方をイメージすると集中力が復活するかもしれません。

最後に、近年は能登半島地震後の浸水被害といった複合的な自然災害、老朽化した下水道管による道路陥没事故などが全国で頻発しており、下水道の課題は年々複雑さを増していると考えています。そのため、下水道技術者へ期待される役割はますます多様かつ重要になっています。事実感じています。こうした中で、下水道の新しい知識・技能を一人に身に付けるのは孤独で大変辛いものですから、今後も日本下水道事業団

研修センターで同じ釜の飯を食べながら、悩みを共有しながら、学習していった頂ければと思います。そして、何か実務で困ったときに、テキストや設計図書を開いて、「研修前より読めるぞー内容が理解できるぞー!」となって頂ければ講師としてこれ以上の喜びはありません。今後の研修生の皆様のご活躍を心より祈っております。



休日の東京観光に迷ったら、東京都下水道局の虹の下水道館という広報施設もオススメです。(写真は9歳の息子がAR取付管から下水を浴びて「うええ」となっているところ。)【館内のご案内】東京都虹の下水道館-東京都下水道局の社会科学見学向け広報施設(東京・お台場有明地区)

研修体験記

研修を通じて発見した 日本下水道事業団研修センターの魅力

埼玉県新座市インフラ整備部
参事(兼)下水道課

課長 梅川 誠



この度は、「研修みずのわ」への寄稿の機会をいただき、感謝申し上げます。

また、本市の職員が研修生として日本下水道事業団(以下、J S)研修センターの皆様にご指導とご支援を賜っておりますこと、心よりお礼申し上げます。

今回、私自身が研修を通

じて感じた研修センターの魅力について述べます。

私は民間の建設コンサルタントを経て、平成16年度に新座市へ入庁しました。当時、下水道についての知識はほとんどなく、右も左もわからない状態、そんな私を支えてくれたのが、J Sの研修でした。

前職で地盤の調査、解析の業務に携わっていた私にとって、下水道事業は未知の世界、入庁当初は不安もありましたが、幸運にもJ Sの研修「管きよI」、「管きよII」を受講する機会に恵まれ、実務に必要な技術

を体系的に学ぶことができました。

私にとって、最も印象深い研修は、渡邊先生の「管きよI」です。図面を手書きで作成し、数量計算、積算を行い、最後に手書きで設計書を仕上げ、A1サイズの図面を袋中に折って収めるという設計書の全てを作り上げる研修でした。研修終了後、その設計書は、

渡邊先生から所属長である課長に研修の成果として送付され、私の手元に戻ってきたのですが、今もその設計書を大切に保管しています。初めて一つの設計書を

最初から最後まで自分の力で作り上げたときの喜びと達成感は、今でも鮮明に覚えています。

さらに、数年後には同じ「管きよI」で講師を務める機会をいただき、今度は「教える側」として、人を育てる責任と喜びに加えて自身の学びを改めて感じました。

J Sでの研修は、私の技術者としての自信と技術力の礎を築く貴重な経験となりました。

研修で得たのは技術だけではなくありません。人と人とのつながりこそが、私にとっての大きな財産になりました。



新座市のデザインマンホール蓋

ました。研修生として、同じ疑問を抱えた仲間たちと

講義後に談話室へ集まり、先輩から送られてきた酒を持ち寄っては、わからなかった部分をぶつけ合い、時には夜遅くまで議論を交わしました。プレゼンテーション資料を作るために知恵を出し合った時間も、芋焼酎との出会いも今となってはかけがえない思い出です。研修が終わった後も、改めて、困難な問題こそ議論を進めることの大切さを痛感しました。

さらに不思議なご縁もありました。私が前職のコンサルタントを辞めた時期に同じく退職した先輩が、その後、他市に勤めていたのですが、同じ日のJSの講師として偶然にも再会したのです。職場は変わっても、同じ下水道の世界で努力を続けている先輩の姿に刺激を受け、「自分もこの道で恩返しをしていきたい」と強く思うきっかけとなりました。

した。

その後、私は8年間下水道課に在籍した後、区画整理事務所への異動で9年間離れましたが、令和3年度に下水道課に復帰し、併せて下水道事業に12年以上関わってきたこととなります。

その間に、下水道事業を取り巻く環境は大きく変わりました。特に老朽化した施設の更新や、気候変動による豪雨への対応など、これらの課題に対応するため、本市では令和2年度から企業会計へ移行し、持続可能な下水道事業に取り組んでいます。これからは「新整備」から「計画的な維持管理・改築更新」への舵切りが必要であり、そのためには計画的な人材育成が不可欠です。

JSの研修には、経営戦略や更新事業、雨水管理に加えて新たなテーマにも対応する内容が求められます。私自身、研修の恩恵を受けてきた一人として、

そして現在、職員を育てる立場として、JSには時代のニーズに応じた研修の進化に大きな期待を寄せています。

私は人材育成の重要性を改めて感じ、研修派遣の人数や予算を増やす取り組みを進めました。令和6年度は6回のJS研修に職員を派遣しました。これは将来を担う技術者を育てるための大きな一歩です。

また、私は、かつて自分を研修に送り出していただいた当時の課長から、JSの講師としての役割を引き継ぐ立場にあります。このように研修生としてだけでなく、講師としてもバトンを受けて繋いでいくことに不思議なご縁を感じています。

以上、私が感じたJS研修とは、技術を習得する場であると同時に、人と人とのつながりを育む場であるということです。同じ目標に向かう仲間と出会い、時

には再会を果たし、知識や経験を共有する中で、水の輪のように広がる人のつながり、それは、やがて現場で互いを助け合うネットワークとなるのです。これこそが、JS研修最大の魅力です。

これからも多くの職員がこの研修で成長し、全国の下水道事業を支える礎となることを願っております。末筆ながら、日本下水道事業団および研修センターの皆様のお声かけを心よりお祈り申し上げます。

日本下水道事業団研修の 思い出

京都府長岡京市上下水道部水道施設課

課長 山本 信夫



りがとうございます。まずは、私の自己紹介をさせていただきます。私は、平成元年に長岡京市役所に入所後、1年目の配属先が下水道部建設第一課という部署で主な業務として、下水道管渠の工事

この度は、「研修みずのわ」への寄稿にあたり、渡邊良彦特任教授から執筆のお声がけをいただき誠に

を積算し発注、現場を監督することでした。平成元年から平成8年まで人事異動

もなく、その8年間の間に下水道事業団の研修は3回参加させていただき、その後、平成26年から平成29年までの4年間係長職として2回目の下水道事業に携わり、令和6年度に下水道施設課長として3度目の下水道事業に携わることになりました。

私の下水道事業団研修ですが、宿泊研修が3回と日帰り研修1回の計4回あるのですが、やはり、初めての研修が一番思い出になっております。私の初めての研修が、公務員一年目で平成元年の「管きよI」でありまして、その当時の講師の一人が渡邊先生でした。その渡邊先生からの執筆依頼ですので管きよIの研修についての思い出を書かせていただきます。なんせ、37年前のことです。まずは、実家に帰って当時の写真を探すところからはじめました。当時の研修メンバー一覧表と集合写真は出

てきたのですが、肝心のカリキュラムが出てこなかったため、急遽、研修センターに残っていないか確認したところ、当時の資料を送付していただき、ありがとうございます。この研修内容を見直していたのですが、やはり土曜日も研修がありましたし、講義だけでなく、測量や演習の他、

体育や施設見学もあり、夜は懇親会等お酒を交わしながら他府県の皆様や事業団の職員の皆様と一緒に大変有意義な研修であったと記憶しております。この3週間の研修期間中、何日か休日がありましたので、同室のメンバーと静岡県まで富士山を見に行ったり、鎌倉まで大仏を見に行ったり、観光等含め楽しく研修期間を過ごせました。また、今では考えられないかもしれませんが、当時の研修メンバーですが、当時の研修メンバー一覧の中には、職場だけでなく、自宅も記載されていたことから、同じ研修

メンバーとは、研修終了後も年賀状の交換を実施しており、現在も続いている方もおられますし、休日に会いに来てくれた方、会いに行った方もいます。やはり、この事業団の研修で一番よかつた事は、他府県の職員さんと知り合いになれて、人脈をつくる事が出来たことだと思っています。

私が初めて研修に参加した平成元年当時の本市の下水道普及率は、確か50%前後だったと記憶しております。また、全国平均の普及率も50%ぐらいで、研修参加者も40人くらいでした。現在の本市の下水道普及率は、99.9%で、なかなか管きよIの研修に参加することは無いのですが、令和7年度は、本市から1名、管きよIの研修に参加させていただきます。

道管の損壊に伴う道路陥没事故が多く発生しています。どこの自治体も普及率も上がり、維持管理の時代に入ってきたと思います。

今後は、老朽化対策等の時代に入り、維持管理に関する研修が必要になってきていると思います。流石に管理職になった現



管きよI受講時の集合写真

在は、研修に参加する機会もありませんが、やはり後輩職員には、今後も事業団の研修を勧めていくと同時に研修費を確保していく立場にあると思っています。

あと数年で定年を迎えることになりましたが、定年後は、今まで会えてない方にも会いに地方にも行きたいと思っています。
最後になります、研修

でお世話になりました渡邊先生をはじめ日本下水道事業団研修センターの皆様、同期研修の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

熊本地震による災害を体験し 能登半島地震への支援

熊本県益城町建設課

課長 鶴野 雅臣



と、心より感謝申し上げます。

私は現在、建設課に所属しておりますが、熊本地震発災当時は下水道課に在籍しておりました。本稿では、自身の経験を基に、熊本地震における下水道施設の被災と復旧、そしてその後の取り組みについてご報告いたします。

この度は、「研修みずのわ」第59号の発刊、誠にありがとうございます。また、渡邊特任教授から執筆のお声掛けをいただきましたこ

〈はじめに〉

平成28年4月14日午後9時26分、震源の深さ11km、マグニチュード6.5、最大震度7の地震が熊本地方を襲いました。それからわずか28時間後の4月16日午前1時25分、同じく熊本地方を震源とする深さ12km、マグニチュード7.3、最大震度7の巨大地震が再



熊本地震による被害状況

び私たちの町を襲い、壊滅的な被害をもたらしました。

本町では広範囲にわたって地盤が大きく沈下し、余震の回数は4,000回を超えました。被害状況は死者45名(関連死を含む)、家屋被害は全壊3,026棟、大規模半壊および半壊3,233棟、一部損壊4,325棟に上り、町内のほとんどの住宅が被災しました。人口も約1,500人減少し、町史上未曾有の大惨事となりました。

私は以前、東日本大震災の発生から2か月後に「チーム熊本」の一員として宮城県東松島市で災害支援業務に携わり、地震の恐ろしさを痛感しておりましたが、まさか自分の町で震災を経験するとは夢にも思っていませんでした。

〈下水道施設の被災状況〉

まず、処理場の被害状況です。水処理施設の反応タンクでは、躯体のコンク

リート継ぎ目にあるエキスパンションジョイントが破損し、タンク内の活性汚泥が漏出しました。これにより、地下管廊を通じてポンプ設備や操作盤等が水没する事態となりました。その他にも、最初沈殿槽や最終沈殿槽で掻寄機のフライト板破損やチェーン脱落が発生しました。通常3系統で稼働していたエアレーションタンクのうち2系統が使用不能となり、処理能力は被災前の3分の1にあたる約4,300³m³/日まで落ち込みました。

さらに汚泥処理施設では、漏水による機器の水没や建物の損傷なども相まって、汚泥脱水設備を含む全ての機能が停止しました。

次に、管渠の被災状況です。本震後、道路上のマンホールの隆起や管路部分の陥没などが数カ所で報告されました。最終的に、本町下水道管渠の全路線約165kmのうち、総延



熊本地震による地盤沈下により浸水被害が発生

ら2か月後の平成28年6月20日、時間最大雨量104mm/hという記録的な豪雨に見舞われました。地震による地盤沈下が原因で排水不良となった町内3カ所で、床上浸水84戸、床下浸水271戸という大規模な浸水被害が発生しました。

しかし、熊本地震は新たな大きな問題を引き起こしました。当時、本町の污水整備率は90%と県内で上位にあり、雨水も主に既存水路による排水で対応できていたため、これまで大きな浸水被害はありませんでした。ところが、地震発生か

長13.6%にあたる約22.4kmで、破損、ずれ、たるみ、扁平などの損傷が確認されました。下水道の災害復旧については、支援自治体の皆様のご協力もあり、令和2年10月末に全て完了することができました。

〈浸水対策について〉

この浸水被害は住民の生活を脅かす深刻な状況であったため、早期の対策が求められました。そこで、まず浸水シミュレーションを実施して被害軽減に向けた具体的な対策を検討し、雨水ポンプ場の整備とフラップ弁の設置等を行うこととしました。

現在、浸水対策として2カ所の雨水ポンプ場が稼働しており、残る1カ所も令和7年度末までに完成する見込みです。



石川県輪島市にて住宅被害認定調査

〈現在の状況〉
熊本地震からまもなく10年が経過しますが、益城町の総人口は令和7年9月末には、34,375人となり、地震発生前の水準とほぼ変わりません。

宿泊地は富山県水見市のホテルで、輪島市役所までは高速道路が閉鎖されていたため、片道約2時間かけて大型バスでの通勤でした。

〈能登半島地震への支援〉
令和6年1月1日に能登半島地震が発生しました。私自身、熊本地震の経験を活かし、下水道関連業務での支援を希望していました。今回は熊本県チームの一員として2月28日から9日間、石川県輪島市へ派遣され、住宅被害認定調査業務に従事しました。



交通広場・益城町復興まちづくりセンター「にじいろ」・役場

また、石川県から帰庁した当日が奇しくも熊本での「みずのわ会」の開催日と重なり、帰庁後そのまま会場へ直行して参加するなど、慌ただしい帰郷となりました。

活動中には、偶然にも能登半島地震の取材に来ていた熊本のテレビ局と遭遇し、住宅被害認定調査に同行いただく形で取材を受け、テレビ出演も経験しました。

令和5年3月には益城町役場新庁舎が完成するなど、復興に向けた様々な事業が展開されています。発災当初からご支援をいただきました各都道府県および各市町村、多くの関係機関の皆様へ、改めて深く感謝申し上げます。

最後にありますが、日本下水道事業団研修センターの今後の益々のご発展と、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

歴史探訪

第五弾

水とともに育まれた新座市の歴史



埼玉県新座市立歴史民俗資料館
館長 川端 真実



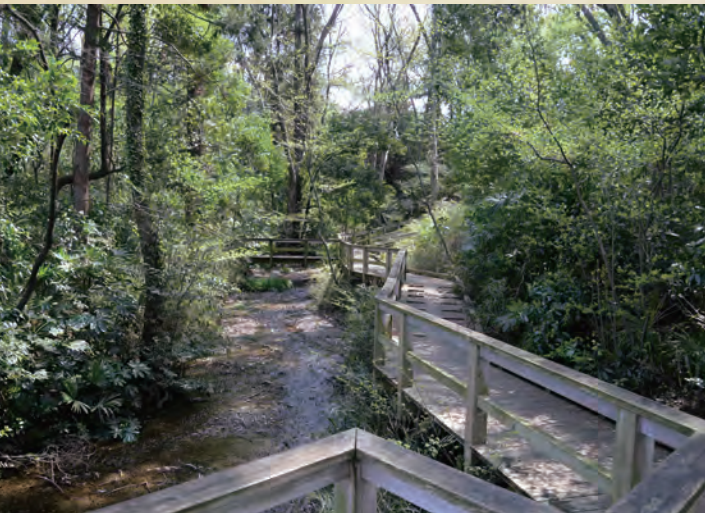
れきしてらす



新座市は、「東京都に半分食い込むまち」という横断幕を関越自動車道に掲げて話題になったほど、首都近郊にあって通勤・通学の利便性に優れながらも、武蔵野の雑木林や野火止水用水など豊かな自然と歴史的文化資産に恵まれたまちです。暮らしやすさと居心地の良さが調和したベッドタウンとして、発展してきました。

北は柳瀬川、南は黒目川沿いに開けた沖積低地と、それには生まれた野火止水台地で新座市は構成され、古くから居住のみならず、宿場や交通の要所として栄え、時代の流れとともに大きな発展を遂げてきました。今回の歴史探訪では、新座市の歴史や見どころをご紹介します。

市域では、約3万年前から1万5千年前の旧石器時代の遺跡が見つかっており、いずれも黒目川沿いの湧水の近くにあり、黒目川流域は古くは片山郷で、「黒目の里」とも呼ばれていました。鎌倉時代には中世武士である片山一族が活躍していたところです。黒目の里での見どころの一つは「妙音沢」です。黒目川沿いに多数ある湧水点の一つで、約3.3ヘクタールの斜面林には豊富な湧水と



妙音沢



野火止用水

東京近郊では珍しい貴重な山野草が自生し、環境省が所管する「平成の名水百選」に選定され、特別緑地保全地区に指定されています。

柳瀬川流域は縄文時代から鎌倉時代にかけての遺跡が認められます。古くから大和田郷といわれ、「いざ鎌倉へ」の道である鎌倉道を中心に開発され、後に川越街道の開通により宿場町として整備されました。

遺跡が多く発見されている河川沿いとは対照的に、水資源が乏しい野火止台地は、江戸時代に開発されるまで人が住みませんでした。承応2年（1653）、当時の川越藩主であった松平伊豆守信綱は、野火止の荒野に農家を移住させて開拓を進め、道に沿って耕地を短冊形に区画し、新しい村をつくりました。承応4年（1655）、信綱は家臣の安松

金右衛門に命じて玉川上水から分水し、野火止台地を経て新河岸川に至る全長約24キロメートルの「野火止用水」を開削しました。この用水は開拓民の飲み

水として利用され、新田開発を成功に導きます。信綱による野火止新田の開発は、川越藩が実施した新田開発の中でも最も計画的かつ精力的なもので、先駆的な事例として関東各地で模倣されます。人々は信綱の官職名にちなんで用水を「伊豆殿堀」と呼び、その偉業をたたえました。以降300年にわたり飲み水として利用され、生活用水としての利用、分水停止を経て、昭和50年から60年代にかけての復原・清流対策事業により復活し、現在は清流と緑を楽しめる遊歩道として市民に親しまれています。野火止用水は当時の素掘りの部分も残る貴重な文化財として、埼玉県の史跡に指定されています。そして、表紙を飾っているのは、本市を代表する「平林寺」です。永和元年（1375）、岩槻（現・さいたま市）に創建され、令和7年に創建650年を迎えました。江戸時代に大河内松平家の菩提寺となり、松平信綱の遺命を受け寛文3年（1663）、野火止に移されました。境内には、信綱ほか同一家一族の眠る廟所があり、境内を流れる野火止用水（平林寺堀）も往時の水路のまま残されています。

茅葺屋根の伽藍を囲み、東京ドーム9個分にもなる広大な境内林は、昭和30年代まで雑木林（農用林・薪炭林）として新座の人々の暮らしを支え、昭和43年（1968）に武蔵野の二次林の生態系として国天然記念物の指定を受けました。雑木林としては国で唯一の指定です。京都の妙心寺に本山を擁し、禅修行の専門道場でもある武蔵野の禅刹を尊び、明治から昭和期には多くの文人墨客も平林寺を訪れています。その一人が、令和7年に生誕150周年を迎えた松永安左エ門（耳庵）です。「電力の鬼」と呼ばれた実業家で、近代・小田原三茶人の一人としても有名です。その松永翁ゆかりの場所が「睡足軒の森」です。園内には、松永翁が草庵として昭和13年（1938）に飛騨地方から移築した江戸後期の古民家「睡足軒」（国登録有形文化財）と雑木林があります。現在は平林寺境内林の一部として開放され、園内を散策でき、市民の憩いや学びの場として活用されています。

ここではご紹介しきれない歴史・文化財については、平林寺や野火止用水に程近い、「新座市立歴史民俗資料館（れきしてらす）」で様々な展示によりご紹介しております。是非足をお運びください。このように水とともに歴史が育まれ、魅力にあふれた新座市について、この歴史探訪をきっかけに少しでも知っていただけましたら幸いです。皆様のお越しを心からお待ちしております。





研修生だより

出会いから繋がる 「みずのわ」

(公財) 岩手県下水道公社

工務課技師 佐藤 瑞穂



この度は、「研修 みずのわ」第59号の発行、誠にありがとうございます。

また、執筆依頼のお声かけをいただきました渡邊先生に、この場を借りまして感謝申し上げます。

私は令和7年度の4月より岩手県からの派遣として(公財) 岩手県下水道公社へ異動して参りました。これまでの5年間の県職員生活では主に河川、砂防及

び港湾行政に携わってお

り、下水道は全くの初心者という状態で4月がスタートし、本当に仕事が務まるのかと不安でいっぱいでした。少しずつ仕事にも慣れてきたところで、令和7年度「実施設計コース管きょ設計Ⅱ」を受講しました。

研修では、講義だけでなく演習やディスカッション等を通して、設計や関係法令など広く深く下水道行政について学ぶことができ、大変勉強になりました。特に推進工法の設計演習では、普段システム等で計算している積算を自分の手で正解するまで何度も計算することで、単価の構成や共

通仮設費等の考え方を知ることができ、貴重な学びとなりました。

研修を終えた今、まだまだではありますが少しずつ設計や現場について理解でき、さらなる下水道分野の知見を深める意欲となっています。

研修生活においては、女性の参加者が私1人であったにも関わらず、

研修生の方々や先生方が気にかけてくださる声をかけてくださり1人の寂しさを感じないほどでした。ほぼ毎晩の交流会(宴会)で日本各地のお酒を片手に研修生の方々と深く知り合うことができ、今でもLINEなどで近況報告等をする間柄となっています(最近では熊の出没状況の話題が多い

です)。また、研修生の中にランニングが趣味の方もおり、同じ趣味で意気投合して毎朝、荒川沿いをランニングしたことも良い思い出の1つです。

次に、渡邊先生との出会いについてお話させていただきます。

研修に参加する前に職場の上司から渡邊先生を紹介いただき、いったいどんな



宮山福会での記念撮影



管きよ設計II受講時の記念撮影

方なのだろうと内心ドキドキしながら研修センターの門を叩いたのを今でも覚えていいます。

渡邊先生は受講したコースの担任でないにも関わらず、研修期間中に沢山の講師の先生方と知り合う機会を作ってくださいました。渡邊先生や講師の先生方から伺う人生の体験談は私にとってはどれも勉強になるものばかりで、大変有意義な研修期間を過ごすことができました。

できました。

また、この時のご縁から同年に開催された宮山福会への参加も叶いました。研修期間中にお会いした先生方との再会は大変嬉しいものであり、沢山の美味しいお酒をいただき、先生方や初めてお会いした方々と有意義な交流の時間を過ごすことができました。翌日に東京でのハーフマラソンを控えており、短時間の参加

となってしまうことが大変悔やまれます。渡邊先生はじめ皆様に応援いただいたおかげで今季ベストのタイムを記録することが出来ました。この場を借りて御礼申し上げます。

このように、渡邊先生のおかげで研修から宮山福会への参加を通して、沢山の方々と知り合うことができました。この渡邊先生をきっかけに繋がった「みずのわ」を大切に、また、知り合うことができた皆様に下水道行政に携わる技術者として成長した姿を見ていただけるよう、これからも業務に邁進してまいります。

最後になりますが、研修でお世話になりました講師の皆様、研修生活を支援くださいました研修センターの皆様、同期研修生の皆様に感謝申し上げます。また、日本下水道事業団様の益々の発展と皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

縁の下ならぬ 土の中の力持ちになるために

宮城県川崎町上下水道課

遠藤 しおり



宮城県川崎町について

私の勤める宮城県川崎町について簡単に紹介します。川崎町は宮城県南西部にある森林のまちで、東に仙台市、西を隣県山形市に接し、西部は蔵王国定公園に属します。町内には、仙台市を中心とした県内の多くの地域の水源となる「釜房ダム」、初代仙台藩主・伊達政宗公が戦の傷を癒した「青根温泉」、日本三大胃腸病の名湯「我々温泉」のほか、世界酒造ランキン第一位の酒蔵が川崎町の地下水で仕込む日本酒「伯楽星」、全国メディアでも取り上げられている「蔵王の

この度は「研修みずのわ」第59号の発刊、誠にありがとうございます。また、歴史ある「研修みずのわ」への寄稿という、貴重な機会を与えてくださいました渡邊良彦特任教授に感謝申し上げます。拙い文章で恐縮ですが、精一杯務めさせていただきますので、よろしくお願い致します。

お釜ピザ」、東北唯一の国営「みちのく杜の湖畔公園」、毎年4月下旬に行われる「アラバキロックフェスティバル」などがありますので川崎町にぜひ足を運んでいただければと思います。



釜房湖から望む蔵王連峰

研修について

私は令和4年度に川崎町役場に入庁以来、下水道に携わっています。下水道係3名（事務2名、技師1名）となっており、昭和60年の供用開始から約40年、下水

道施設としては処理場2ヶ所、中継ポンプ場2ヶ所、管路延長約88kmで、処理場の運転管理を民間包括委託しています。私が日本下水道事業団の研修に初めて参加したのは、当時の上司から勧められ仙台市で行われた「基礎から学ぶ処理場の維持管理」でした。入庁して4ヶ月の新しい職場で、日々の業務を覚えるのが一杯だった私からすると、下水道法や処理場の仕組み、運転管理について初心者でも理解しやすい資料と対面にて講師の方のお話を聞ける貴重な機会で、大変有意義な研修となりました。何より、(当然のことなのですが)受講者全員が下水道関係者ということ

が衝撃でした！入庁したばかりで参加した他市町村合同新規採用職員研修では、下水道関連の職員はほぼおらず、技師職も1割程度で、土木関係の方だった記憶があります。日常業務の情報共有や悩みを分かち合える人が他市町村にもいれば、状況が違えど視野も広がるのではないかと思っていたのですが、そもそもいないのではどうしようもないと諦めていました。それが、この研修では参加者全員が下水道関係者！目的が下水道の維持管理を学ぶためなので当然なのですが、当時の私には大変衝撃的でした。「下水道に携わる人がこんなにいるなんて！」と思った反面、水道が毎日使われるということは、使用した水を流す下水道だって毎日使うのだから、たくさんの方が下水道に携わっているのは至極当然のことなのに、そのことを下水道に携わる私自身が見失っていたことに気づきました。初めての研修は1日という短い時間ではありましたが、講師の先生や受講生の方ともお話しすることができ、とても充実した研修となったことを上司に報告したと

ころ、「技師として知識を深めるためにもっと研修を受けてみては？」とのお言葉をいただき、おかげさまで入庁から現在まで毎年下水道事業団の研修に参加させていただいています。今まで参加したコースは、前述の他、埼玉県戸田市の下水道研修センターで行われたR5「管きよの維持管理」、渡邊先生と初めてお会いしたR6「管きよ基礎」、ウォーターPPPの進め方、R7「管きよ設計I」を受講しており、どのコース担当の先生も講師の先生方も親身になって対応していただき、毎回実りある研修になっています。「みずのわ」読者の皆様は既にご承知のこととは思いますが、研修センター食堂で提供される食事は大変美味しく、私は物理的に一回りも二回りも大きくなって職場に戻ることにまりました。美味しい食事と食堂の方とお話しできる時間が研



R6管きよ基礎積算演習集合

研修中の癒しの時間でもあったので、まだ研修を受けられたことのない方には是非とも体験していただきたいです。

少し脱線しましたが、研修を受ける度、今後当町だけではなく全国の自治体で老朽化した施設が増え、課題も多く悩みは尽きないと思います。研修で得た知識と実務で経験を積み、町民の方が少しでも安心して快適な生活が送れるよう

に日々努力したいと思うようになったことが、私にとって研修で得られた最大の成果です。

最後になりますが、渡邊先生をはじめ、講師の皆様、研修センターでお世話になった皆様に改めて感謝申し上げますと共に、下水道事業に携わるすべての方々のご活躍、ご健勝と日本下水道事業団の益々のご発展をお祈り申し上げます。

日本下水道事業団研修を振り返って

静岡県掛川市上下水道部
下水道課下水道整備係

主任 渡邊 淳



た学びと成長についてお話しさせていただきます。

この度は、「研修みずのわ（第59号）」への執筆機会をいただき、心より感謝申し上げます。渡邊良彦特任教授よりお声がけいただいた際には、私に務まるかと戸惑いながらも、先生の励ましを受け、新たな挑戦として執筆をお引き受けしました。本稿では、令和7年度「実施設計コース管きよ設計Ⅰ」に参加した研修体験を振り返り、得られ

まず私の勤務する掛川市について少しご紹介いたします。掛川市は、日本のほぼ中央に位置し、北は八高山から連なる山々、中央は小笠山丘陵に広がる田園、南は白砂青松の遠州灘海岸など、多くの自然に恵まれており、戦国の時代を偲ぶ、掛川城・高天神城・横須賀城の三城跡と、東海道や秋葉街道とともに、宿場町や城下町が形成され、往時の政治・経済・交通・文化の要所として発展してきました。昭和54年に全国に先駆けて「生涯学習都市宣言」を行い、現在も多くの市民

に「報徳の精神」と「生涯学習の理念」が根付き、市民一人ひとりの充実した生きがいと、郷土に愛着を持つ「協働のまちづくり」が進められています。私の人生のほとんどをこの掛川市で過ごしており、新幹線掛川駅を中心に交通アクセスが良い、自然と都市が調和した住みやすい都市です。

さて本題の研修体験について記させていただきます。研修参加前、私は異動直後で下水道関連の知識が乏しく、講義についていけないのではないかとという不安を抱えていました。また、十数年ぶりの集団生活に対

する抵抗感もあり、参加へのモチベーションは低い状態でした。しかし、実際に研修が始まると、研修仲間や講師陣とのコミュニケーションを通じて不安を克服し、充実した学びの時間を得ることができました。

私が参加した第1回研修には全国から38名の方々が集まり、平均年齢は約26歳とフレッシュな顔ぶれでした。女性参加者も8名おり、渡邊先生によれば例年になく多さだったとのことでした。その中で私はほぼ最年長という立場から研修生の幹事を務めることとなり、先生のご指導のもとでまとめ役としての役割を果たしました。研修初日には副幹事や記録係の方々と昼食を共にする機会があり、渡邊先生のお心遣いによって緊張がほぐれたおかげで、その後の研修生活を円滑に進めることができました。

研修では、管きよ設計の基礎を幅広く学ぶ機会を得



掛川城

ました。「下水道概論」から始まり、「管路施設」や「管きよ断面設計」についての講義に加え、「積算演習」など実践的な内容が豊富に取り入れられています。その中でも特に印象深かったのが設計図作成演習です。私は普段測量業務を担当する機会がないため、

研修センター周辺をグルーブで測量する経験は新鮮でした。その測量データを基に手作業で図面を作成しましたが、デジタル化が進む現代においてあえて手で描く作業が含まれていたことに驚きました。初めての体験であるため作業は難航し、講義時間を超えて夜まで取り組むほどの挑戦となりました。しかし、仲間と協力しながら一つの成果物を仕上げる充実感と達成感は格別であり、貴重な経験を得ることができました。

研修で最も魅力的だったのは、全国から集まった参加者との人的交流だったと

思います。談話室では連日深夜まで語り合い、業務だけでなく日常生活や人生観にまで話が広がる楽しい時間を過ごしました。こうしたコミュニケーションを通じて新たな視点や価値観を学び、人と人とのつながり

の大切さを再認識する契機となりました。初日の緊張感が解け、研修生全員が協力し合って取り組む姿に触れ、学び以上の成果を得たと感じています。

結びに、今回の執筆機会をくださった渡邊先生をはじめ、研修センターの方々、そして全国各地から集まった研修生の皆様に心より感謝申し上げます。この研修で得た知識、経験、そして絆を糧に今後の業務に活かす、さらに社会に貢献していけるよう努力してまいります。皆様のますますのご活躍と日本下水道事業団研修のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。

日本下水道事業団研修を振り返って

三重県松阪市上下水道部
北部上下水道事務所

主任 西村 和美



この度は、「研修みずのわ」への執筆依頼をいただき、誠にありがとうございます。また、お声掛けいただいた渡邊先生に心より感謝申し上げます。執筆依頼を受けた際、まさか自分にお声を頂けるとは思っていなかったため「寄稿」の漢字も全く思い浮かばず「スキコウ」とは何ですか？」と先生に聞き返してしまっ

ほどです。このような文章を書く経験があまりないため、拙い点があるかもしれませんが、どうぞご了承いただければ幸いです。

三重県松阪市について

私が勤務する松阪市は三重県のほぼ中央に位置する人口約15万人の都市で、全国的にも有名な「松阪牛」が特産です。市内には松阪牛を楽しめる飲食店が数多くあり、毎年11月には「松阪牛まつり」が開催されて

います。中でも、松阪肉を使ったすき焼きのふるまいやせり市では、食の魅力と地域の文化を存分に体感できます。また、松阪肉だけではなく、地元では手ごろに楽しめる「松阪鶏焼き肉」も親しまれています。赤味



松阪鶏焼き肉



松阪牛のすき焼き

贈ベースのタレで焼いた鶏肉が特徴で非常に香ばしく、ご飯が進みます。食べ物のお話ばかりになりましたが、松阪市は東西約50kmと広く、豊かな食文化だけでなく、歴史や美しい自然環境にも恵まれています。私自身、趣味で野鳥の観察や登山を楽しんでいるため、気軽に登れる山が市内に点在していることもおすすめポイントの一つです。三重県に足を運ばれる際は、ぜひ松阪市にも訪れていただければ嬉しいです。

研修について

私は平成25年度に松阪市役所へ入庁し、今年で行政経験12年目となります。上下水道事業には4年間携わった経験がありますが、下水道の業務は令和7年度から携わったばかりで、まだ半年も満たない状況でした。そのような私が今回参加した研修は、令和7年度の第

2回「実施設計コース管きよ設計Ⅱ」で、計17日にわたる長期研修でした。参加者は全国から集まった18名で、女性は私を含め2名でした。研修内容は基礎知識の習得から設計演習、土質実験、施設研修、グループディスカッションまで多岐にわたり、通常の業務から離れてじっくりと下水道に関する知識を学べる貴重な期間となりました。

また、宿泊型研修という形式もあって、全国の研修生の皆さんとの交流が研修の大きな魅力となりました。他自治体の業務方法や課題について情報交換をすることで、自分の視野を広げる良い機会となりました。さらに、仕事の話だけでなく、プライベートな話も自然とできる環境が整っていたおかげで、まるで学生時代に戻ったような感覚で楽しく過ごすことができました。

予期しなかった出来事として特に印象深かったのは、もう一人の女性の研修生の方とともに渡邊先生に「お茶会」に誘っていただいたことです。渡邊先生の尽きることはない津々浦々の楽しいお話を聞いたことはもちろんのこと、同席していた研修生の方、講師の先生方や他のコースの研修生の方ともお話できる機会を作っていただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。

研修を終えて

今回の研修を通じて、下水道事業が担う地域社会への役割と責任を改めて実感するとともに、技術者としてさらに成長したいという意欲が高まりました。研修で得た知識を実際の業務に活かしながら、地域の期待に応えられるよう今後も努力を続けていきたいと思えます。

最後になりますが、本研修でお世話になった渡邊先生をはじめ、講義をご指導くださった講師の先生方、業務をサポートいただいた日本下水道事業団の皆さま、そして同期研修生の皆

さまに心より感謝申し上げます。皆さまのご活躍をお祈りするとともに、今後とも技術者としての繋がりを大切にしていきたいと思っています。



修了式後、教室にて記念撮影
(左より薩摩川内市 古里さん、渡邊先生、松阪市 西村)

日本下水道事業団研修の体験を経て

鹿児島県薩摩川内市下水道室
下水道グループ

主任補 **古里 智香**



鹿児島県薩摩川内市役所
水道局の古里と申します。
どうぞよろしくお願いいたします。

この度は、研修会報「研修みずのわ」の寄稿の機会をいただきありがとうございます。このような寄稿は初めてですので拙い文章で恐縮ですが、研修を振り返りたいと思います。
まず、私の勤務している

薩摩川内市を紹介させていただきます。当市は、鹿児島県の北西部に位置し、総面積682.92km²、ラムサール条約登録湿地の蘭牟田池、地形変化の美しい甌島、西郷隆盛も浸かった各地の温泉など、多種多様な自然環境を有しています。市中を流れる一級河川・川内川で見ることのできる川内川あらしは、晩秋から初春にかけての寒気期に川内川河口付近へ向けて荒々しい蒸発霧が流れていくという日本では3カ所しか見られない珍しい自然現象です。
次に、薩摩川内市の歴史のある市民一丸となるイベ

ントなどを一部紹介させて
いただきます。

毎年9月に開催される
川内大綱引きは慶長年間
(1596〜1614年)

に始まったとされ、一説に
は関ヶ原の合戦の際、第17
代島津義弘が兵士の士気
を高めるために始めたと言
われています。開催日

当日は、地元の学生を含
む1,500人が参加し、

365本の綱から1本の
大綱(365m、約7t)
を作成する綱練りが行わ
れ、練り上げた綱を運ぶ隊

列は、「綱を運ぶ最大のパ
レード」としてギネス世界
記録に認定されました。ま

た、大綱引き本番では、市
中を流れる一級河川川内川

で区分けされた上方と下方
の総勢3,000人余りの
参加者が集い、綱中心部で

さらしを巻いた勇ましい格
好の押し隊が引き手の体勢

を崩しにかかる押し合戦が
繰り広げられるなど迫力あ
る対戦模様は圧巻です。更

に、綱の後方にある一般市
民が引くことができる引き
綱は、大綱引き終了後に持
ち帰り玄関に飾ると1年間

無病息災で過ごすことがで
きる縁起物としても親しま
れています。
また、鹿児島県薩摩半島



川内大綱引中心部の活気溢れる様

から西へ約30キロの甌島で
は、8,000万年前(白
亜紀)の地層から形成され
た断崖や巨岩の圧巻の風景
や、クルージングやシーカ
ヤック体験、更に鹿児島恐
竜博物館である甌ミュージ
アムでは、様々な恐竜の化
石展示などがご覧いただけ
ます。

さて、今回の研修につい
てですが、私は、平成30年

10月に薩摩川内市役所に入
庁し、令和7年4月から水
道局下水道室に配属され、
主に公共下水道の設計・積
算や現場管理等の業務を担
当しています。日本下水道

事業団研修については、令
和7年度「実施設計コース
【管きよ設計Ⅱ】」を受講さ
せていただきました。

戸田市の下水道事業団研
修センターへ向かう機内で
は、下水道室へ配属されて
から4カ月程度しか経って
おらず、自身の所属する市
の下水道の状況を少しづつ
把握していつている状況の

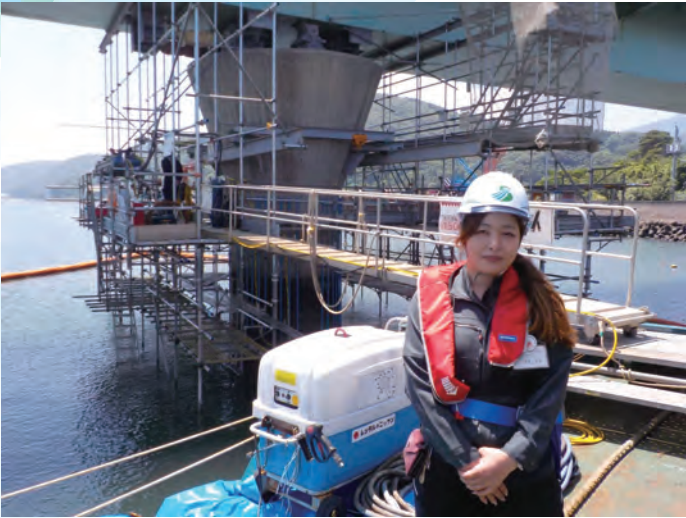
中、下水道事業自体への知
識も乏しい私が講義内容
についていけるかという
不安、寮生活で他の受講者
の方々と打ち解けられるか
という不安、また自宅に残
してこる我が子への負担を
考えつつも、全国各地の下
水道にかかわる人達との新
たな出会いに対する期待な
ど、様々な感情が渦巻いて
いました。

研修内容については管
きよ設計の基礎的な考え方
から応用まで、さらには実
験や施設見学など多岐にわ
たるポリウム満点のもの
でした。自身の職場での普
段の業務だけでは知り得な
い、体験できない内容も多
くあり、管きよの設計につ
いてじっくりと広く学ぶこ
とができる大変貴重な機会
であったと感じます。また、
おしゃべり上手な渡邊先生
と講師の方々と交えて、講
義後の交流の場に参加させ
ていただく機会もあり、大
変貴重な経験ができたこと

中、下水道事業自体への知
識も乏しい私が講義内容
についていけるかという
不安、寮生活で他の受講者
の方々と打ち解けられるか
という不安、また自宅に残
してこる我が子への負担を
考えつつも、全国各地の下
水道にかかわる人達との新
たな出会いに対する期待な
ど、様々な感情が渦巻いて
いました。

心より感謝申し上げます。
また、講義外の時間についても、様々な地域から集まった受講生の方々と講義後の研修センター内の食堂や談話室で民間経験等を踏まえながら各自自治体の状況や課題などについて話しをしたり、グループ発表の準備として各自自治体の課題を解決すべく班員の方々とディスカッションを重ねたり、休日に研修仲間と付近を散策するなど、とても有意義な時間を過ごすとともに、本研修で3週間共に過

ごしたかけがえない仲間を得ることができました。参加前に抱えていた不安など一瞬で吹き飛ばすほどに楽しく充実した研修期間を送ることができ、研修が終わってしまうのが名残惜しいとさえ感じるほどにあつという間の3週間でした。研修最終日、空港へ向かう事業団バスの中で台風12号の影響で搭乗予定の便が欠航となっていて、発覚し、上司に連絡を取りながら慌しく延泊や搭乗機の変更手続きに追われ、研修仲間と



橋梁補修（川内河口大橋）の現場にて

連絡を取り合ったのも、今となつてはいい経験であったと感じています。これから先も研修で得た知識や経験を生かして業務に励んで

いきたいと思います。最後にありますが、研修中大変お世話になりました。渡邊先生をはじめ各講義でお世話になりました講師の

皆様、共に研修を受けた受講生の皆様に感謝申し上げますとともに、下水道事業団の今後益々の発展をお祈り申し上げます。

日本下水道事業団研修を受講して得たこと

沖縄県うるま市水道部下水道課管理係

長堂 裕也



はじめに

この度は「研修みずのわ第59号」の発刊、誠におめでとうございます。執筆依頼の連絡を頂いたとき、大変光栄な事だと感じ、引き

受けました。今となつては言葉足らずの私で大丈夫か不安な心境ですが、執筆させて頂きます。執筆依頼のお声をかけていただいた渡邊良彦特任教授に、この場をかりまして感謝申し上げます。

はじめに、うるま市（以下本市）について少し紹介させていただきます。本市は、平成17年4月1日に旧具志川市、旧石川市、旧与那城町、旧勝連町の2市2

下水道事業団研修について

私は、これまで「維持管理コース（管きよの点検・調査）」、「実施設計コース（管更生の設計と施工管

町が合併し、誕生しました。本市は、那覇市より北東へ25km、沖縄本島中部の東海岸に位置しており、東に金武湾、南に中城湾の両湾に接し、東南に伸びる半島の北方および東方海上には、有人・無人を含めて8つの島々があり美しい風景と豊かな自然環境に恵まれており、人口約12万7千人ほどのまちです。沖縄県に來られた際は、ぜひうるま市へ立ち寄って下さい。



令和6年1月

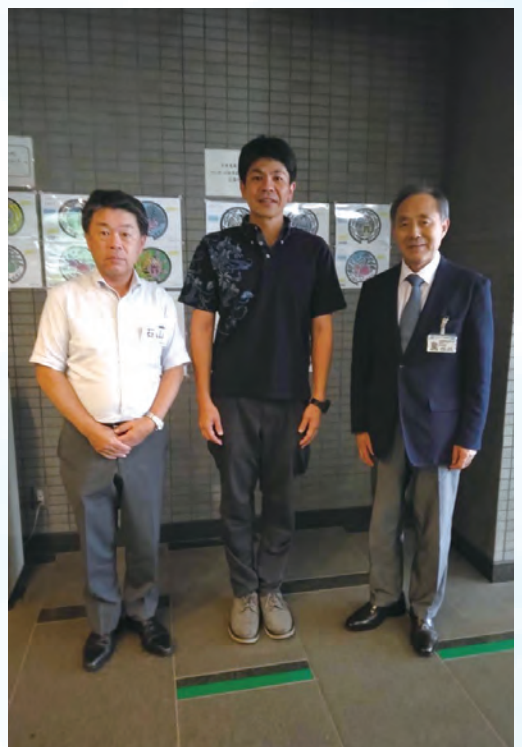
理)、「実施設計コース(管きよ設計Ⅰ)」、「維持管理コース(管きよの維持管理Ⅰ)」に参加し、計4回のJS研修を受講させていただきました。直近のJS研修については、令和7年7月7日から18日までの10日間にわたり日本下水道事業団研

修センターにて「維持管理コース(管きよの維持管理第1回)」を受講しました。「管きよの維持管理」と一言で申ししましても、その業務内容については多種多様です。それは公共下水道の清掃調査及び修繕、改築、下水道台帳システム管理、

不明水調査対策、雨水幹線の浚渫及び除草などです。下水道管きよの維持管理は目にみえないことでもあると同時に、道路陥没等の問題が生じた際には日常生活に多大な影響を及ぼす可能性があります。異常箇所の対応については、状況に応じて効率的な工法を使い分ける必要があります。そのため他自治体で行っている予防保全対策や、維持管理に対する考え方、知識や技術を学び、今後の業務に役立てていきたいと思い、本研修を真剣に取り組みしました。本研修では、管きよの維持管理において基礎的知識を身につけることができたと実感しております。

研修内容も座学だけでなく「管路施設の点検調査実習」では、実際にTVカメラ車、管口カメラの実演を拝見し、G&U技術研究センターへ伺い、鉄蓋の変遷を交えて、豪雨や老朽化、すべり等のリスクに対し必要とされる性能について学びました。実際に鉄蓋のすべりやすさについて乾燥と湿潤、ふたの模様形状や摩擦、それぞれの状態とアスファルトとのすべりの違いを治具により体感することができました。また豪雨時の下水道管路施設における水理現象、マンホールふたの浮上・飛散の実験を見学することができたへん勉強になりました。

下水道事業団研修を受講して、下水道施設に関する専門的知識を学び得たものは沢山あり、修得することができ誠に感謝の念でいっぱいです。その中でも、研修で知り合った仲間と出会えたことは私にとってかけがえのない出来事の一つです。この出会いは、知識以上に大切なものであり、私の今後の良き財産になると思っております。最後になりましたが、研修中大変お世話になりました渡邊先生、高村先生、稲垣先生、講師の皆様、下水道事業団の皆様、同期研修生の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、益々のご活躍を心よりお祈りいたします。



令和7年7月

ご縁をつなぐ旅のおはなし(トルコ)

宮城県松島町会計課

課長 大宮司 綾



みなさま、こんにちは。これまで「今回が最後」と思いつつ「研修みずのわ」の寄稿文を書かせていただいて数年が過ぎました。毎号お読みいただいているみなさま、本当にありがとうございます。そして、渡邊良彦先生よりまたまた！寄稿の依頼をいただき、僭越ながらまたペンを取らせていただくことになりました。私のようなものが何度も書かせていただいているのでしょうか？と毎度不安に思いつつも、このような機会がなければ、自分の体験や自分の思いを文字に起こし他のみなさまにお伝えするなどとい

うことはほとんどありませんので、自分が成長できるチャンス！とポジティブにとらえて書いてみたいと思います。いろいろなご縁があり2024年の5月にアメリカのノースカロライナ州を訪問したことを前号に書かせていただきました。コロナ禍により身近な人ともリアルな対面が叶わなかった時期に、あらためて「会いたい人には会っておくことの大切さ」を痛感した私は、アメリカで大事な友人達と再会できた幸福感に満たされた気持ちのまま、2024年から2025年にかけての年末年始の9連休を

利用してトルコ共和国に行くことを計画しました。私が目指すのはトルコ共和国の南西部、エーゲ海に面した「ボドルム湾(Bodrum Bay)」というところ。仕事でご縁をいただいた方の住む場所「ボドルム」をいつか訪れたいと思っていたからです。

私の働く(住んでもいる)松島町の目の前に広がる松島湾は、2013年から世界各国約40湾が加盟する国際的組織「世界でもっと美しい湾クラブ(フランスが事務局)」に加盟しており、加盟当時のクラブの会長がトルコのボドルム湾代表の方でした。日本の湾が初加盟ということもあり、会長には本当にお世話になりました。その後の人事異動により私が職務として当該クラブの活動に関わることはなくなってしまうましたが、折に触れ近況報告をしたりしてご縁を絶やさずにいましたので、このたび私から会いに行きたいとお伝えしたらとても喜んでいただきました。

ボドルムはトルコと言いますが、ギリシャとの国境も近いためギリシャの文化も入り混じるビーチリゾートです。沿岸に建つ建物はすべて真っ白で、青く美しいエーゲ海に映える美しい港町です。



聞くところによると、夏は多くの観光客が押し寄せるのでメインストリートを歩くのも大変なほどだそうです。私が訪れたのはローシーズンの冬でしたので混雑もなくゆったりと過ごすことができました。歩いて行ける遺跡も周辺にたくさんあり、迷っている道案内をしてくださる地元の方もいて、人の優しさも溢れる場所。ボドルムが日本であまり知られていないのもつたない。ガイドブックには載せきれない素敵な場所には世界中に溢れていますね。

私が旅をするときにもつぱら興味があるのは人々の暮らしぶりです。異国の地に住む人々の日常を垣間見ることがわたしの非日常なので、地元のスーパーマーケットや地元の人々が利用する食堂に入っ暮らすように楽しんできました。ボドルムには大きなマリーナがあり、目を見張るほど美しい豪華なヨットの数々を眺めながらお散歩していると、どこからともなくたくさ

んの野良犬が集まってきて私と一緒に歩いてくれます。トルコは野良犬、野良猫がまちにたくさんいます。地域のみんなが面倒をみているようで、道ばたに野良犬、野良猫が食べる餌のコーナーが設けられていたり、スーパーマーケットで野良犬、野良猫用の餌も買うことができました。トルコでは野良犬や野良猫の権利が国の法律で守られているようで、その動物愛護文化に感激しました。動物を

人間の都合に合わせるといって感じではなく、生き物はすべて共存するのが当たり前。その命との向き合い方になんがか心が温まりました。やれる人がやれる時にやれる範囲で、みんながやればよい。今、自分が日常的に過ごしている環境下の常識は決して万国共通ではないんだよ、といつも旅が教えてくれます。いろいろな価値観があり、いろいろな人々の暮らしがある。自分のものさしで考えて、安



ボドルム湾のギャリップ元会長と再会

易に批判したりジャッジしたりする風潮がメディアやインターネット、日常にまで溢れている日本に少し疲れていたもので、気持ちのリセットになりましたし、いろいろな人の気持ちに寄り添うことが常々求められ公務員の仕事をすうえでの多くの気づきを与えてもらえました。モスクのスピーカーからまち全体に流れる「祈りの言葉」を耳にしながら、たくさんさんの犬と歩いたボドルムでの時間を私は一生忘れないと思います。

ボドルム滞在中に迎えた大晦日、会長さんご夫妻と一緒に仲間で開催するホームパーティーに私も連れて行っただきました。たいへん盛り上がり、最後はみんなでカラオケタイム！You Tube とスピーカー、マイクがあれば各国のカラオケソングを歌えるらしいですよ（驚愕）。日本人の私に「真夜中のドア（1980年の曲）」を歌ってほしいとリクエストする20代ぐらいと思われる若い女性が

いました。話を聞くと、その時代の日本のシテイポップが今世界中で聞かれているようで、トルコでも人気のようでした。残念ながらその曲を知らなくてリクエストに応えられずに他の曲を歌ってしまいました。が、今後は日本のシテイポップもしっかり覚えておこうと思います（笑）

2024年に日本とトルコは外交関係樹立100周年を迎えたそうです。ホームパーティでもそのことについて話してください方もいました。東日本震災の時も被災地はトルコの方々にたくさん支



トルコで出会ったねこのあくび



ボドルムのまちなみ

援をいただきましたし、これまでの歴史の中でそれぞれの国が苦境にあるときに助け合ってきた絆の深い国、トルコ。100周年の記念の年に行ったのも何かのお導きかもしれませぬ。ボドルムで出会った方々に「イスタンブールにも行くといよいよ！」とアドバイスをいただいたので、また機会があればイスタンブールに飛んで行こうと思います。年も重ね、思考も身体も凝り固まりそうになるお年頃！ですが、旅に行くことで「井の中の蛙になることなかれ」「いくつになってもチャ

レンジを忘れるな」と自分を叱咤激励することができています。

「ご縁を大切にすると自分の世界が広がる」ということを私が知ったのは他でもない、日本下水道事業団研修での渡邊良彦先生との出会いのおかげです。これからも小さな一点が大きな輪に広がる「みずのわ」のごとく、ご縁を大切に過ごしていきたいと思えます。あらためて、この場をお借りして感謝申し上げます。

ます。宮城・山形・福島・岩手の研修生OBが集う「宮山福会」、2026年の開催地は当県宮城を予定しています（第31回目）。ご参加のみなさまにとつてご縁と絆が深まる機会となるよう、私も幹事としてがんばる所存です。

たわいもない私の旅にまつわるお話を読みいただきました。ありがとうございます。みなさま、またどこかでお会いしましょう。



趣味と実益を兼ねた
体験談？

スーパーカーブ 1110 MD
(郵便局仕様)

岩手県三戸市建設整備部

部長 古山 淳夫

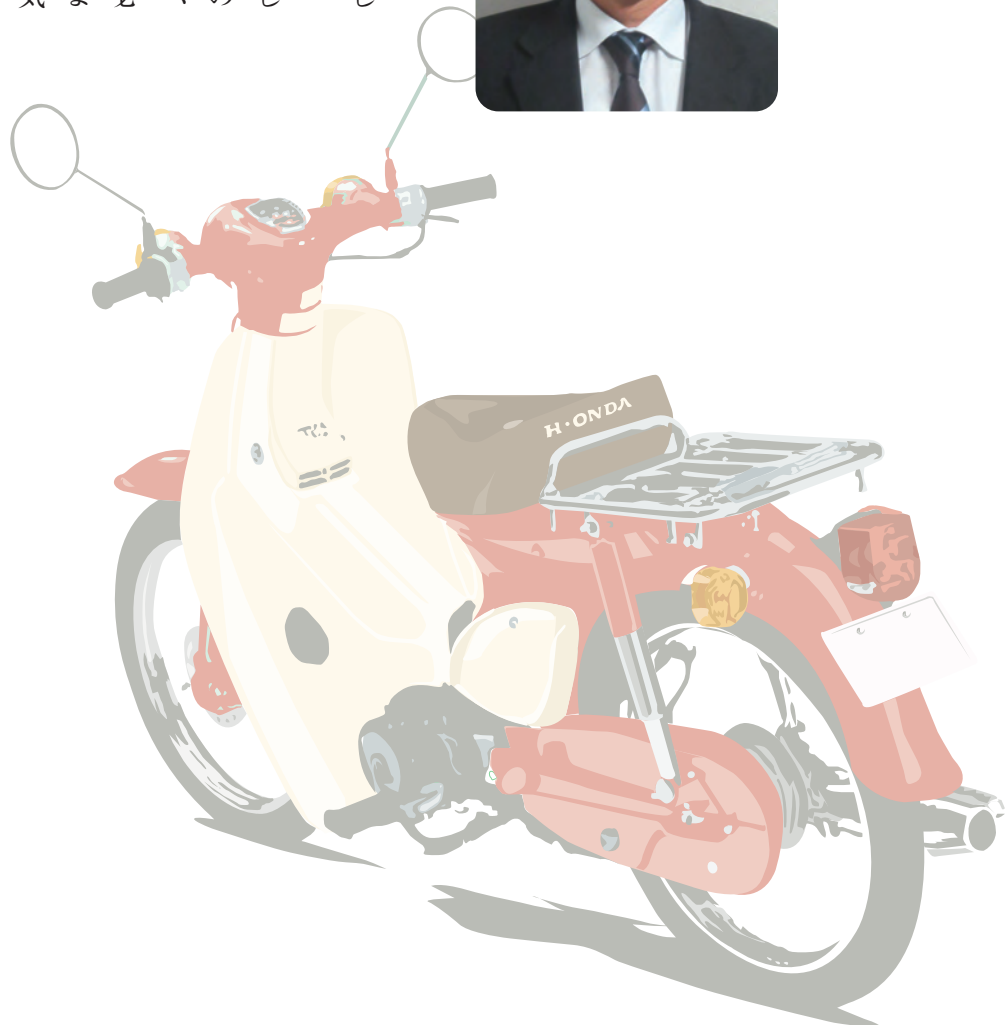


連載依頼の経緯

2024年57号「研修みずのわ」に投稿いたしました記事が、私のごく少数の知人の方々から非常に好評だったのか、岩手県の渡邊教授を囲む会で、酔った勢いで、「研修みずのわ」に投稿します。」と横柄にも宣言してしまったことからか、何回か「研修みずのわ」に連載を依頼されることとなりました。研修センター及び渡邊教授からの依頼があったからには、お断りするとはできないので、僭越ではありますが、研修センターのこととは、違うわたく

しの趣味などについて投稿したいと思います。

趣味とは、一般的に「楽しみながら行うこと」を指すのだと思いますが、私の場合は、どれも「必要にせまられて死になつて修行している」ようなものばかりで、とても気楽に楽しんでいるとは言えません。そんな中から今回は、最近若者に人気があるホンダのスーパーカーブについて投稿してみたいと思います。「研修みずのわ」に全く関係のない投稿となりますが、もと研修者の戯言(ざれごと)として読み流していただければ幸いです。



スーパーカーブとは？

(長年の人気を誇る理由)

ホンダのスーパーカーブといえば、1958年、昭和33年に発売されてから、なんと67年も、ほぼ同じ形(外觀)のまま製造されているバイクです。私が若い時には、業務用バイクで若者は誰も乗ってい

ませんでした。時代は変わって令和の若者に人気があるということですが、何が人気なのか？考えてみました。

【人気の理由】

- ①とても頑丈で故障がない
- ②燃費が良い 50ccで

105.0km/L、
110ccで68.0km
/L(カタログ値)

③税金、保険が安く気軽に乗れる

④昭和レトロな雰囲気など、個人の嗜好に合わせてカスタムできる

このほかにも、アニメ「天気の子」にピンク色のスーパーカブが登場することや、両親も友達もいない独りぼっちの女子高生 小熊がスーパーカブ（前所有者3名死亡の格安1万円のスーパーカブ50）と出会う物語が進んでいくアニメ「スーパーカブ」などが人気となっていることもあると思います。

さて、私がこのスーパーカブをどのようにして手に入れたか！ですが、若者に人気だからバイク屋に行って、題名にある「スーパーカブ110MD（郵便局仕様）」を見つけて買った、というものではありません。この郵便局で使っているスーパーカブは、MD（メールデリバリー）と呼ばれており、国内で払い下げや廃棄はされていません。使用後は、ほぼすべて、海外

に輸出されているため、国内で個人が所有しているのは、非常にめずらしいケースなのです。ここで、ひとこと断っておきますが、私は郵便局が好きでもなく、アニメ「スーパーカブ」の札子が郵政カブMD90乗っていたからとか、ホンダのバイクに関係がある人であるとか、そのようなことは、まったくと言って関係の無い者であります。強いていうなれば、バイクはヤマハが好きでした。

幻の「郵便局仕様スーパーカブ（MD）」…先輩からの遺品を託されて

では、このスーパーカブは、どのようにして、手にしたかという点、前所有者がエンジンを焼き付かせて不動となり、バイク屋さんも修理不能という診断となり、それでもあきらめきれず、特殊な自動車整備をする方に修理をお願いしても無理と診断され、スクラップになるものを

引き取ってきたものです。この時点では、安い中古のエンジンを探して載せ替えしようと思っておりましたが、ここから、「カブ沼」と呼ばれるスーパーカブの沼にハマっていく最初の出来事でした。

このスーパーカブはいわく付き。前所有者、前々所有者ともに市役所の先輩で、前々所有者が在職中に急逝し、その形見として前所有者が乗っていたものです。ですから、直せるものなら直して乗ってくれとお願ひされておりましたので、復活させるべく引き受けたものでした。

ここで、私のバイク整備のレベルですが、下水道業界には、機械の専門家が多くおりますが、土木職の私は、独学でバイクのレストアをしており、不動の原付スクーターを1台直して乗っている程度です。

素人のエンジン再生
（ニコイチ）への挑戦

まずは、中古のエンジンがないことには話が始まりません。手に入らなければ、本来にただのゴミです。とりあえず、ヤフオクで中古エンジンを検索したところ、なんと7万円から相場でした。ちなみに、バイクの250ccや400ccの中古エンジンが3万円から7万円で売られているのに、なんと高いことでしょうか！こんなところで、スーパーカブの人気が伺えます。そんな中、あやしいヤフオクで、中古カブエンジンが、未チェック実働品で2万円で出品されていましたので、送料3千円を払っても安いと思ひポチりました。

「あやしいヤフオク」そのとおりのエンジンで、確かにカブのエンジンなのですが、エンジンの製造番号（刻印）が無いエンジンでした。国内に流通して、どうして製造番号なしのものが出回るのか不



supercub110MD and Furuyama

思議でしょうがありませんでした。しかし、動くことは動くので焼き付いたエンジンを載せ替え、ナンバー取得し自賠責保険もかけて試運転で近くの公園まで行ってきた結果、なんと、オイルがエンジンから漏れているではありませんか。あゝ、やっぱりヤブオクエンジンか！と思いがながら調べてみると、エンジンの

下からポタポタと数か所からオイルが漏れておりました。その原因は、未熟な私がエンジンについているステッポボルトを間違えて、長いボルトを締めこんだ結果、ボルトがケースを突き抜けてオイルが漏れていたのです。

このようにスーパークブの復活に失敗した私は、これ以上の出費は抑えたい一心で、

焼き付いたエンジンのケースは使えないと思い、エンジン2基↓1基（ニコイチ）に挑戦することとなりました。今から考えると、とても無謀なことを始めたと思います。

ここからは、少し専門的になりますので、面倒くさい方は、この段落を飛ばしてお読みください。

まず、ニコイチのために、焼き付いたエンジンをすべてバラシ、クランクケースだけを使えるようにしました。さすがに焼き付いたエンジン、ボルトも固く熱で固着しているし、ピストンリングも固着して外れないので、バイク屋さん嫌がるのもわかります。でも、焼き付いた原因が判明しました。オイルポンプを駆動する軸（スピンドルカムチェーンガイドスプロケット）が機能せず、オイルが循環しなかったことによるものでした。頑丈なエンジンと言われますが、機械は故障します。クランクケースだけを使用し、製造番号なしエンジン

のギア、クランクシャフト、ピストン、シリンダー、エンジンヘッドを移植しましたが、2ヶ月以上の悪戦苦闘により何とかニコイチが完成したのでした。この間、何度も組み立てては、部品が余り、また、最初から組直しを繰り返し、最後の方には、バイク屋さんより早く分解整備ができるのではと思えるようになったのでした。そのほか、ライト、ウインカー、ストップランプ、前後ベアリング、フロントサスのオイル交換、バッテリー交換などなど純正部品で仕上げたため思った以上の出費になりました。

これらの整備は、1月2月で、岩手県では、凍結でバイクの乗れない時期に行いました。

無事にニコイチのエンジンが完成し、車体に取り付けその他の整備も終わり走れるようになり、暖かくなる春を待つておりました。ついに、スーパークブを所有するカブヌシ（株主）となった訳でし

たが、これからも苦難の道は続くのでした。

復活のドライブとカブミ (警察騒ぎとなったバルブ クラッシュ)

春になり、岩手県でもバイクが乗れるようになりま
す。郵便カブは、この時点で
82000km走行してお
り、外観は古ぼけていますが、
走行性能は、真冬の整備のお
かげで快調な走りをみせてお
りました。

郵便仕様ということで、日
頃、本業で走っている郵便
局のバイクも親近感が湧い
てきておりました。そんな
1000kmほど走った春、
約150km離れた秋田県で
スーパーカブのミーティン
グがあるとの情報を得ましたの
で、郵便カブで参加するかと
思い立ったのでした。

「2024秋田でカブミ」
のキャッチフレーズで大台ス
キー場駐車場(秋田県大仙市)
での開催でしたが、自分で直

したバイクほど故障で止まる
確率が高いと思っており、と
ても不安な訳です。そこで、
自治労セット共済に加入して
いるので、「故障」でのレッ
カー車負担無料という保険内
容を確認し、どこで止まって
も、とりあえずレッカー移動
できることを確認し出発した
のでした。

約400台弱のバイクが集
まっており、どれも個性的で
フルカスタムしたものやレト
ロ感を出したものなど、見て
いるだけで楽しいミーティ
ングで非常にカスタムの参考
になりました。気分もよく、
天気も良く、カブの調子もよ
く、そのまま無事に家まで着
いたのでした。

次の日です。朝から約10k
m離れたところで、自称家庭
菜園と呼んでいる田んぼの水
位を確認しようとカブで走っ
ていた時です。ブーンとエ
ンジンが止まったのです。な
んと、昨日300kmも走っ
て機嫌を損ねたか?と蹴飛ば
しても動かないので、翌日に

回収しようと道路の脇に邪魔
にならないように停めておき
ました。この止め方が良くな
かったのか、翌日、カブを回
収に行ったら警察からの手紙
がシートに貼られておりまし
た。手紙には「このバイクの
持ち主は、二戸警察署まで連
絡ください。」とあり、何か
事件に巻き込まれたか?と思
いながら警察署に連絡した
ら、地元住民から「知らない
人がバイクを止めて山に入っ
て出てこない。きつと、山の
中で心臓麻痺でも起こして倒
れている。」と警察に通報が
あったとのことでした。警察
には、事情を説明し、了解し
てもらいました。

自宅まで回収し、何が原因
なのか調べたところ、バルブ
クラッシュを起こしていたの
です。バルブクラッシュとは、
文字通りバルブとピストンが
接触し壊れることで、エンジ
ンにすごい負荷がかかって破
損することから、通常は廃車
となるものです。専門的にな
りますが、今回カブは、ヘッ

ド破損、ピストン破損、シリ
ンダー破損、コンロッド曲が
り、クランクシャフトにガタ
が出るという最悪の状況でし
た。普通なら、ここで「捨て
る!」と決断するでしょう。
しかし、これは先輩からの遺
品。捨てるわけにはいきませ
ん。とはいえ、こんなボロボ
ロバイクに湯水のごとくお金はか
けたくない。直せるとの一心
で分解して直し始めるのでし
た。

また、少し専門的になりま
すので、整備に関心のない方
は次の段落へ進んでくださ
い。これまで、素人整備であ
ることから、修理部品はすべ
て安心安全で高価なホンダ純
正部品を使用してきました
が、今回の部品は、大物が多
く、パーツリストから拾うと
8万円程度の金額となりました。
これでは、もう少し足す
と、中古のスーパーカブが買
えてしまうことから、やむな
く今回は社外品を購入するこ
とといたしました。それでも、
約3万円弱と痛い出費です。



今回の修理も、エンジンをすべてばらさなければ交換できませんが、前回のスキルがありますので、手順はもう頭の中にあり、前回2カ月を要した作業が2日程度で終わりました。クランクベアリングの交換を除けばというオチがあります。このクランクベアリングは、ピストンの下の回転する軸についているのですが、私の師匠（You-tube）では、軸を冷凍庫に入れて、ベアリングをヒーターで温めて入れれば簡単です。なんて言っているのですが、

要は、軸を冷やして縮めて、ベアリングを温めて膨張させるということで、挿入が可能となるものですが、何回チャレンジしてもうまくいかず入らないのです。結局、ベアリングを壊しては、発注を3回くらい繰り返して、ふと、気づいたのがこの軸は、焼き付けを起こしたものを使用していて、膨張しているのではと気が付き、社外品の新品を購入しチャレンジしたところ、師匠

（You-tube）でやっているとおりにできたのでした。この間1カ月以上かかっております。

このような、素人整備の強みは、時間的制約が無いことでしょうか。プロなら、修理見積を作成し、修理期間を伝え料金を頂くということなのでしょうが、個人の場合、できなくてもいいのです。自己責任ですから。いくら時間をかけても怒られません。ということ、2回目の冬が過ぎたのでした。

終わらない再生への道 （オイル漏れとの闘い）

修理も終わり今年の春から乗っていますが、まだ、完璧に直ったというわけではありません。走るとエンジンオイルが漏れて、マフラーにオイルが垂れ、煙が上がるのです。原因は、ヘッドガasketの不良なのですが、純正新品のヘッドガasketに交換しても治らず、師匠その2

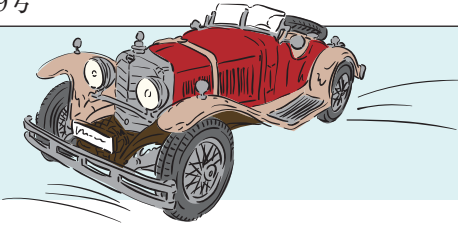
（ChatterGPT）に相談したら、ヘッドガasketに液状のガasketを塗るといいと言われ、信じて新品を再発注し、液状ガasketを塗り組上げた結果、益々オイル漏れが激しくなるという事態に陥っております。もう、エンジンをはらすのも疲れまして、今年夏はオイルを

足しながら走ることにしまして、約4000km走行しております。スーパーカブのエンジンオイル容量は、700ccですが、この夏4000kmの走行で約2000ccのオイルを足しながら走っています。オイルは漏れていますが、ゆっくり走れば、それほど漏れないので、法定速度厳守（60km以下）で、模範走行しております。

現在の走行距離は90,000kmになるのですが、いつ捨ててやろうかと思いつながら通勤などに使用しております。今年の冬は、オイル漏れを直そうと思っております。捨てなければの話です。

今回は、郵便カブを書きましたが、家には、乗れると思つて5年間の自賠責保険をかけたにもかかわらず、エンジンをばらして直さなければならなくなっている新聞屋仕様のスーパーカブが眠っています。こちらも、捨ててやるかと思うくらい修理を行っており、このようなカブ沼にはまって抜け出せないであります。一般的に「カブ沼にはまる」というのは、カスタムパーツにお金をかけることなどに使われますが私の場合、カスタムしたいのですが、その前に正常に走ることに注力しております。本当にカブに疲れています。もう、長くありませんでしたので、ここで止めます。もし、ここまで読まれた方がおりましたら、未熟な文章と身勝手な乱文にお付き合いいただきまして有難うございます。大変な集中力をお持ちだと思えますので、今後のご活躍は確実ではないかと思

います。ありがとうございます。ありがとうございました。



第1回

ワクイミュージアムの夢と出会い

日本下水道事業団研修センター

専任講師 大鹿 純一



涌井清春という人物

この方をご存じでしょうか？

日本クラシックカー界の第一人者、世界においても名の知れたクラシックカー愛好家です。一例を述べれば：世界でも最も権威のあるクラシックカーイベントとして「ペブルビーチ・コンクールデレガンス」があります。米国カリフォルニア州の名門ゴルフ場で夏季に開催され、世界中から集められたクラシックカーのコンディションや正統さを競い合う、マニアにとって夢の舞台です。エントリーは完

全招待制ですが、出展可能な

200台に対して8倍ほどの

希望があり厳選な審査がある

と言われます。その雰囲気

華やかさ、演出の素晴らしさ、

審査レベルの高さ、まさに世

界最高峰のクラシックカーイ

ベントです。その主催者から

2度も招待された人物、それ

が涌井清春氏であり、ワクイ

ミュージアムを立ち上げた方

です。

ワクイミュージアムの開設

キツカケとなったのは、

1924年のベントレー3

リッター。このクルマは白洲

次郎が戦前に英国ケンブリッジ大学に留学していた時に乗っていたクルマです。

『カーグラフィック』誌を

創刊した故・小林彰太郎氏よ

り、白洲次郎のベントレーが

現存していて、イギリスのベ

ントレー・ドライバーズクラ

ブのメンバーが長年、所有し

ていることを聞き、貴重なベ

ントレーを涌井氏が日本に持ってきました。それと同時に、いつかミュージアムをつくりたい」という願望が一気に現実化していったとのことです。

なお、ミュージアム開設に当たり、小林氏と共に次の二つを定めました。

「展示しているクルマは、



米ペブルビーチにてベントレーを駆る涌井氏



白洲次郎のベントレー (1924)

井氏の店には共通の趣味嗜好を持った仲間が集い、互いに研鑽を重ね、楽しみを分かち合っていました。分からないこと、知らないことがあれば、手分けしてみんなで調べ、解決し、その答えに感嘆しながら共有していました。人が人を呼び、週末などは大勢で賑わっていました。つまり、クルマ

の販売店というよりも、まさにサロンでした。「涌井氏のところに行けば、クラシックカーのオーナーたちが集っていて、和気あいあいと楽しんでいる」そんな風に思ってくれた人たちが集ってくれて、いろいろな話ができました。自分のコレクションを充実させながらお客さんに喜んでもらう、クラシックカーを愛する者同士として想いを共有することができると理想の場とす

らう。30年を経た涌井氏の活動によって、昨今では春から秋にかけての毎週末かならず全国のどこかでクラシックカーのイベントが開催されるようになりました。イベントに参加することで仲間もでき、喜びを共有することができるよう。情報も共有し、経験と知識も増えていきます。クラシックカーやクルマの楽しみは、人生をより豊かにしてくれるものだと涌井氏は信じています。オープン以降、世界中から多くの来場者があり、ワクイミュージアムは使命を存分に果たしている聖地だと言えます。そのクラシックカーの聖地を通したワクワク・ドキドキの出来事や交流をこれから連載致しますので、ぜひご期待ください！

ワクイミュージアムの果たす役割

いつでも走り出すことができるよう、動態保存する」「規模の大きさではなく、内容の独自性を追求していく」

こうして20年ほど前、私の地元である埼玉県加須市（かぞし）にオープンする運びとなり、微力ながら私も立ち上げのスタッフとしてお手伝いをしました。



ワクイミュージアム入口

ること。そこそがワクイミュージアムの果たすべき役割であり、涌井清春氏の夢なのだろうと思います。

人と人の出会い、豊かな人生のために

メに一言

もしワクイミュージアム（加須市）に来たならば、300年の歴史をもつ名物の「加須手打ちうどん」を食して頂きたくお勧めします。また、毎年5月3日には100メートルのジャンボ鯉のぼり遊泳と共に開催される「KAZOクラシックカーフェスタ」も是非ご覧頂きたいと存じます。是非一度、加須へ！ワクイミュージアムへ！



左から、RRクラブ和田会長、前加須市長大橋氏、涌井氏と私

[雑感]

大谷翔平選手を思う (完結編)

岩手県南広域振興局土木部
花巻土木センター

所長 長沼 輝伸



この度は、「研修みずのわ(第59号)」の発刊にあたり、渡邊良彦特任教授から執筆のお声がけをいただき感謝申し上げます。

前前号、前号と大谷選手への思いを綴ってきましたので、今回はさすがに辞退したいとお伝えしましたが、「大谷選手にお子さんができたからお祝いだね!第3弾頼むよ!」とのこと。僣越ながら寄稿させていただきます。

私は大谷選手の母校である花巻東高

校がある岩手県花巻市に住んでいます。かれこれ自宅を構えてから18年が経ちます。花巻東高校は自宅のそばにありますので、生徒たちと挨拶を交わすことは日常としてあり、大谷選手や菊池雄星選手もその一人でした。この辺の繋がりは、「研修みずのわ(第57号)」をご覧ください。

あらためて言うまでもありませんが、花巻に暮らす私にとって、大谷選手は単なるスーパースターではありません

せん。高校時代、通学路やグラウンドで挨拶を交わしたこともあり、彼の礼儀正しきや穏やかな笑顔は今でも鮮明に思い出されます。地元の人々は皆、彼を「わが子のように」思い、活躍のたびに歓喜し、時には涙します。そんな彼が、今やロサンゼルス・ドジャースの中心選手として世界を舞台に輝いていることは、私たちにとって誇り以外の何ものでもありません。

そして、もう一人、わが岩手から新たな星が大谷選手がいるロサンゼルス・ドジャースに入団しました。佐々木朗希選手です。彼は陸前高田市出身で、東日本大震災での過酷な経験乗り越え、野球に情熱を注ぎ続けました。大船渡高校時代では3年夏の県大会決勝に故障予防のため出場を回避し悔しい思いをしています。その後千葉ロッテマリーンズに入団し圧倒的な球速と制球力でファンを魅了、プロ3年目の4月に1994年の槇原寛己以来28年ぶりに完全試合を達成するなど輝かしい戦績を残しました。

そんな彼が、大谷選手と同じドジャースでプレーし、なんとワールド

[雑感]

大谷翔平選手を思う (完結編)

シリーズではリリーフとして登板し、見事活躍してくれました！

これからは、皆さんの記憶に残っているとは思いますが、あらためて個人的見解を交えて2025年ワールドシリーズを振り返りながら、岩手出身の2人の活躍を称えたいと思います。

相手はトロントブルージェイズ。メジャーリーグで唯一カナダに本拠地を置き、強力かつ粘っこい打線が特徴、投手力もあり攻守に優れた若手の多い球団。

一勝一敗で迎えた第3戦は、まさに語り継がれるべき歴史的な試合で、試合時間は6時間39分、延長18回に及ぶ激闘でした。

大谷選手はこの試合で、4安打(2本塁打、2二塁打)を含む9打席連続出塁というワールドシリーズ史上初の偉業を達成しました。試合終盤には相手チームが勝負を避け、4打席連続申告敬遠という前代未聞の対応を取ったほどでした。また、佐々木選手は8回と9回を無失点で抑える力投を見せ大いに観客を沸かせました。試合はフリーマン選手のサヨナラ本塁打で幕を



花巻東高校野球グラウンド脇に飾られているモニュメントには、毎日のように全国からファンが訪れています。

閉じましたが、大谷選手や佐々木選手の存在がなければこの勝利はなかったでしょう。

そして、この試合の翌日、第4戦では大谷選手が投手として先発登板。疲労の残る中でも力投を見せ、6回0/3、93球、6安打、4失点、6奪三振、打者としては3打数無安打の内容でしたが、「二刀流」での挑戦は称賛に値し、全世界の野球ファンに強烈なメッセージを残しました。

さらに第7戦でも指名打者兼投手として先発出場しました。2回1/3を投げて3失点、6奪三振。打者としては5打数2安打1四球と、投打でチームを鼓舞し存在感を示しました。ドジャースは延長11回の末に勝利し、球団初の2年連続世界一を達成。忘れてならないのは、山本由伸投手の献身的かつ圧倒的な活躍です。小さい体ながら、真っ向勝負を挑んでいく姿に、多くの日本人は感動し、感激の涙を流したのではないのでしょうか。

今年の大谷選手、佐々木選手に共通するのは、目標に向かって貪欲に突き進む姿勢と故障を抱えながらも「復活

(comeback)」を果たしたことです。

大谷選手は高校時代から「メジャーで活躍する」という明確なビジョンを持ち、緻密な目標設定と自己管理を徹底していました。彼の目標を「見える化」した「目標達成シート」については、前号でも紹介しましたが、それは単なる計画表ではなく、夢を現実にするためのフラッグです。そして、今シーズンは右肘の手術を経て、2シーズンぶりに投手復活を果たしました。手術以降試合に出場しながら、リハビリを続けてきたことは、どれほどの苦労があったのか想像が付きませんが、大谷選手は「野球が好きだからやっているだけ。」とさらりと言いそう…。

佐々木選手もまた、震災を乗り越えた経験を経て、野球への情熱を絶やすことなく、「若い時に挑戦したい」という強い思いを実現するため渡米し、異国の地での挑戦を恐れず、着実に進化を遂げたと思います。今シーズン序盤から中盤までは、環境の変化や故障もあり出場機会に恵まれませんでした。しかし、ポストシーズンには、これまでの先発から抑えに転向し、見事復活を果たし、ワールドシリーズ優勝

の立役者になりました。

こういった彼らの人間性もまた、私たち県民が誇るべき点であると考えます。大谷選手は常に謙虚で、周囲への感謝を忘れません。佐々木選手も冷静沈着でありながら、仲間への信頼と責任感を持ってマウンドに立ちます。彼らの姿勢は、地方の子供たちにとって最高の手本であり、夢を与える至宝であると、私は思います。

これからも、彼らの背中を見つめながら、私は応援し続けます。岩手の空の下から、世界へ翔けるふたりの星に、最大限の敬意と感謝を込めて。彼らの物語は、まだまだ終わらないのです。

さて、下水道においても「復活(改築)」が喫緊の課題となっています。今年1月には埼玉県八潮市で道路陥没事故が発生し国民に下水道施設の維持管理の重要性を意識付けたきっかけとなりました。犠牲になられた方へご冥福をお祈りするとともに、復旧にあられた関係者の皆様には敬意を表します。

これまでも下水道管理者は適切に維持管理を実施してきたことと思っておりますが、この事故を機に、全国の下水

【雑感】

大谷翔平選手を思う (完結編)



【菊池雄星選手】
複合野球施設「キング・オブ・ザ・ヒル＝KOH」をプロデュースして故郷に貢献



【大谷翔平選手】
2023シーズンMVP&ホームラン王記念モニュメント



【佐々木麟太郎選手】
高校通算140本塁打達成

道管きよの調査点検がより一層進み、結果として安全安心で衛生的な生活環境の構築につながってほしいです。

老朽化した施設は今後も増加の一途をたどりませんが、全国の自治体や各企業が、一丸で課題解決に取り組んでいくことを願っています。

日本下水道事業団研修センターには「チーム下水道」の一員を育成する大事な使命を担っていたいただいていることに感謝するとともに、微力ながら引き続き応援していきたいと思っています。

最後になりますが、大谷選手は、今シーズン3年連続4回目のMVPを獲得しました。4回のMVP受賞が投票者全員から1位を獲得する満票という快挙です。ワールドシリーズ制覇とMVP獲得は、大谷選手にとっても満足のいくシーズンだったと思いますし、彼は何より「チームの勝利」を第一に考えています。そして彼は来シーズンをすでに見据えています。優勝パレード後の祝勝イベントで「来シーズンの優勝リングを取りに行く準備はできている！」とファンの前で宣言しました！

来シーズンは、開幕から二刀流でフル稼働し、未だ手に届いていないサイヤング賞の獲得とホームラン王の獲得、そしてワールドシリーズ3連覇の果てしなく高い目標を設定していると思いますし、それを実現すべく、この寄稿が皆さんに読まれていた時、我々を熱狂の渦に巻き込んでくれたことを願っています。

・花巻市は、令和6年11月30日付で一般社団法人全日本女子野球連盟により、全国で18自治体目、東北では初となる「女子野球タウン」に認定され女子野球的普及のみならず、女子野球を通じて国際社会の共通目標として掲げられている【SDGs】のうちジェンダー平等の実現や住み続けられるまちづくりを推進し、社会的貢献を目指しています。(花巻市HPより)

・菊池雄星選手や大谷翔平選手が高校時代に活躍した花巻球場は、2025年11月に愛称が「JALスタジアム花巻」になりました。



宮山福会



「宮山福（みやふく）会」の
近況（復活開催〜現在）

山形広域環境事務組合
事務局長 阿部 真二



この度は、寄稿の依頼を
いただきまして、誠にあり
がとうございます。

初めに、私の所属する山
形広域環境事務組合につい
てですが、山形市・上市市・
山辺町・中山町で構成さ
れ、ごみ・し尿処理施設の

設置・運営を行う一部事務

組合（下水道ではあまり馴
染みがないかと）となって
おります。当組合では、職
員は構成市町から派遣され
ており、電気職・機械職が
多くを占めております。私
の場合は、二十数年前、山
形市の電気職として事業団
研修を受講させていただい
たことが、縁の始まりとな
ります。

さて私からは、研修つな
がりで活動している「宮山
福会（みやふくかい）」の

近況について、定期報告さ
せていただきます。

同会の活動については、
これまでも多くの方が寄稿
していらっしゃいますの
で、ここでは会の概要につ
いてのみ重複して触れさせ
ていただきますが、同会は、
関東地方、宮城県、福島県、
山形県ほか多数地域の会員
からなる、事業団研修セン
ターの渡邊良彦先生が代表
を務める会でございます。
私は、同会の山形県連絡員
となっております。

私の報告は、令和四年に
続く四回目で、前回を読み
返してみますと、「令和二
三年度とコロナ禍による会
の中止が続いており、四年
度こそは、山形県月山志津
温泉「仙臺屋」での復活を
祈る」という内容でした。

以降、既に他会員より寄
稿されているとおり、令和
四年度に「仙臺屋」で復活
を果たし、五年度は宮城県
松島温泉、六年度は福島県
奥飯坂温泉にて、そして七

年度は再び山形県のターン
となったところでありま
す。

一言では順調に復活・継
続したようですが、多くの
方々も当時同様の思いをさ
れていたでしょうが、今思
うと、各々が職場等の異な
る状況を判断しての参加で
あり、本当に開催して大丈
夫なのか、手探りで復活に
至った記憶がございます。

また、令和四年度の復活
開催では、私が幹事である
にもかかわらず、仙台の某
公的機関への出張のため、
夜八時に到着という出来事
も、その用件とともに思い
出しました。その節は、米
沢市石山様から取り仕切っ
ていただき、誠にありがと
うございました。

話は今年度の活動となり
ますが、今度はインパウン
ドによる宿泊料金高騰が直
撃し、開催地選択に悩みま
した。私的には結構思い
切って、初心に帰り？公共
の宿である山形県村山市暮



宮山福会 (R7.10.17クアハウス基点)

点温泉「クアハウス基点」とさせていただきました。「クアハウス基点」は、山形県を代表する河川最上川（日本三大急流の一つ）の中流岸に位置しております。付近には、歴史的に水

運の障害となった三難所「基点」・「三ヶ瀬」・「隼」があり、山形城主「最上義光」が岩礁を大開削し、経済の大動脈となったことが知られております。さて、十月十七日金曜日

の開催当日は、渡邊先生、最も遠方からは長岡京市谷口様をはじめ、関東地方・岩手県・宮城県・福島県・山形県会員を合わせ二十四人にお集まりいただきました。ここで特筆すべきは、岩手県下水道公社佐藤瑞穂様、長井市板垣浩美様、河北町安部文男様・鈴木信也様、東根市遠藤拓也様の五名の方々に初参加をいただき、とりわけ勢いのない山形県会員にとっては、明るい未来が開けてきたところでございます。

また、毎年ではございますが、皆様からのお土産である各地の日本酒・ワインなど、十分過ぎるほど堪能させていただきました。

次に、翌日十八日土曜日となりますが、「最上徳内記念館」より、三難所の「三ヶ瀬」・「隼」を經由し、村山そば街道の「あいかも会館」と、村山市内を巡らせていただきます。なお、「最上徳内」は村山市を代

表する偉人であり、江戸時代に北海道、樺太や国後・択捉・得撫島などを探検し、ある方からは「間宮林蔵」などと「北辺の探検と護りの三英傑」とも称されております。

その後については、天童市の「天童織田の里歴史館」

（天童織田藩は信長の次男 信雄を祖とする）を經由し、「仙臺屋」での二次会（宿泊）に移ります。渡邊先生、谷口様、板垣様をはじめ、八人の参加となりました。

毎年ではありますが、「紅葉の盛り」・「月山の冠雪」が見られることと併せ、宿



宮山福会翌々日 (R7.10.19仙臺屋)

から頂戴した月山地ビールとともに「キノコづくし」「岩魚のから揚げ」など食べきれないほどの料理をいただいたところです。

二次会の翌日には、お土産などを求めて、西川町の玉谷製麺所（私はここまで同行し天童市の自宅へ）、渡邊先生の本拠地寒河江市の皿屋食堂などを経由し、行程が全て終了しました（これも毎年です）。

以上、甚だ簡単ではありますが、同会の近況となり、今後も継続させていただきます。

最後に月並みではございますが、事業団様の益々の発展をご祈念申し上げ、また宿泊料金が落ち着き、気軽に国内旅行ができる日が戻ることを待ち望み、結びとさせていただきます。

定期報告に際しては、毎回書かせていただいておりますが、山形県会員は、引き続きずーっと募集中です。



「岩手みずのわ会」の近況

岩手県南広域振興局土木部
花巻土木センター

所 長 長 沼 輝 伸



この度は、「研修みずのわ（第59号）」の発刊にあたり、渡邊良彦特任教授から執筆のお声がけをいただき感謝申し上げます。僭越ながら、岩手みずのわ会会員を代表して、同会の開催について執筆させていただきます。

2024年度岩手みずのわ会は、2月13日に盛岡市内で開催し、渡邊先生と元米沢市下水道課長の石山さんをお招きし、総勢10名の参加をいただきました。

花巻市小野寺さん、二戸市古山さんのほか、県流域下水道事務所、（公財）岩手県下水道公社から職責を問わず渡邊先生にご縁のある方々が集まり、ワイワイと賑やかに懇親を深めました。

古山さんから提供いただいた白濁の薫り豊かなエナ

ジードリンクは、皆を極楽に導き……。大変ごちそうさまでした！また、渡邊先生が「永遠の57歳」である事実に笑劇を受け、優しくも深く響き渡る美声酔いしれながら、あつという間の3時間が過ぎ去り、またの再会を誓ったところです。

さて、岩手みずのわ会は、平成19年度から始まっています。初めは盛岡市内で開催後、花巻市、二戸市と転々とし、それ以降は皆が集まりやすい盛岡市で開催しています。かれこれ18回目（コロナ禍で2回中止）となります。

これまで盛岡市、花巻市、陸前高田市、二戸市、雫石町、（公財）岩手県下水道公社、岩手県の方々に参加していただきました。

私は平成10年度に渡邊先生が担当された「管きよⅡ」を受講した御縁で、それ以降大変お世話になっているもので、この会の事務局を勝手に引き受けています。

この寄稿をお読みにになり、「わたしも渡邊先生に研修でお世話になった！」とか「渡邊先生と手を握りたい！授かりたい！」という方は是非とも私まで連絡をいただきたいです。参加して懇親を深めましょう。

事務局の私の不手際で、これまでの開催記録をきちんと写真などで残していません。そのため、わずかに残る写真や頭の片隅に残る記憶を頼りに、これまでの開催を思い起こしては、渡邊先生だけは心身ともに「変わっていないなー、レジエンドだなー」と尊敬しています。

こちらの写真は、平成21年度の二戸市開催の様子です。懐かしい。

発足当時から変わったことといえば、私の髪の毛と下水道をはじめとする汚水処理施設整備の進展です。

発足時（平成19年度末）の岩手県の汚水処理人口普及率は68.6%でしたが、

現在（令和6年度末）では、85.9%にまで向上しました。これも、会員の皆さんをはじめ、県内市町村など下水道行政に携わってくださった皆様の方々の御尽力によるものですし、渡邊先生をはじめ研修センターが育成を続けてこられた成果であると確信しております。

研修センターは、令和4年に新寮室棟を稼働し研修生活を快適に過ごせる環境が作られました。また研修生活では欠かせないのが研修生たちのネットワークづくりです。「同じ釜の飯を食い、学び、呑む・語る」この研修生活が研修生の一体化を醸成します。研修後、職場に帰ってから、上司に相談する前に「研修で知り合ったあの人に聞いてみよう」と電話やメールでやり取りできるのです。これは素晴らしい財産ではないでしょうか。

岩手みずのわ会は、そういったネットワークを継続

していくことを願い、毎年開催していきたくと考えています。「髪はながーい友」というテレビCMが昔ありましたが、岩手みずのわ会も「ながーい友」として、

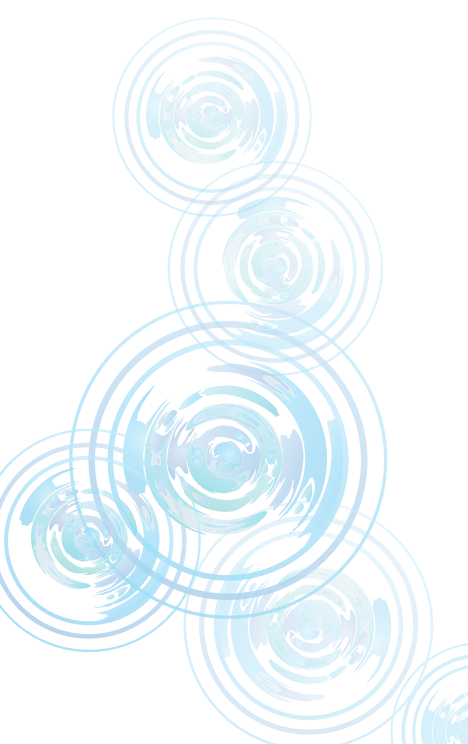
これからもお引き立てのほどよろしく願います。



令和7年2月盛岡市内にて



渡邊先生（左）と古山さん（中央）



福島みずのわ会



「福島県みずのわ会」 について

福島県郡山市都市構想部
公園緑地課

主任 八代 隆史



この度は「研修みずのわ」第59号の発刊、誠におめでとうございます。また、渡邊特任教授より寄稿のお声がけをいただき、感謝申し上げます。

始めに私の地元である福

ます。

郡山市の西部には猪苗代湖があり、夏には湖水浴やキャンプが楽しめることから家族連れで賑わいます。また、猪苗代湖の近くには萩姫伝説として知られる磐梯熱海温泉があり、美しい自然に囲まれながら温泉に浸かれば日頃の疲れを癒してくれます。毎年8月の初旬には郡山駅前において采女伝説にちなんだ郡山うねめまつりが開催され、多くの市民による踊り流しが行われます。

鳥県郡山市の紹介をさせていただきます。郡山市は、福島県の中央に位置し、東北地方で仙台に次いで第2位の人口規模を誇る東北の拠点都市となっております。首都圏から東北新幹線で約80分というアクセスの良さに加え、東北・磐越両自動車道が縦横に交差するなど、交通の利便性が良いことから「陸の港」とも称され、「人」「モノ」「情報」が集まる中核市であり

ブラックラーメン」です。

「郡山ブラックラーメン」は、見た目の漆黒さとは対照的に、マイルドであっさりとした醤油ベースのスープが最大の特徴です。また、米どころの郡山はお酒の種類も豊富で、地元の蔵元で丹念に作られる純米酒や芋焼酎、ワイン、ウイスキーなど個性豊かな味が楽しめます。自然豊かで美味しいものがいっぱいあります。郡山市へ是非、足をお運びいただければと存じます。

次には食についてですが、ラーメンと言えば福島県の中では喜多方ラーメンや白河ラーメンが全国的にも有名ですが、郡山も福島三大ラーメンの一つとして知られております。郡山市は人口当たりのラーメン店舗数が多く、福島県の中でも指折りのラーメン激戦区であります。郡山のラーメンの中で最も有名なのが濃くて黒いスープが特徴の「郡山

先生のお願いであればと副幹事を引き受けさせていただきました。全国の各自治体の下水道に携わる方々が研修に参加されており、初めは知らない方ばかりで大変不安と緊張でいっぱいでしたが、初日の夜に懇親会を開催したことで参加者同士が打ち解けあいスムーズに研修を進めることができました。また、研修中には渡邊先生にお誘いいただきました。研修における幹事や副幹事の心構えをレクチャーいただきました。大変勉強になりました。

研修後においても渡邊先生とのお付き合いは有難いことに続いており、郡山市近郊で開催する下水道事業団の同窓会（福島県みずのわ会）があります。近年はコロナ禍等もあり実施されない年もありましたが、例年2月は、渡邊先生の東北地方行脚の月間となっております。本市にもお越しください。先生を囲む会を開

催しており、本市の下水道事業団研修OBだけでなく、隣接する須賀川市の下水道事業団研修OBも参加し、思い出話などで毎回大いに盛り上がります。

また、宮城県、山形県、福島県、山形県、福島県のほか近隣の岩手県及び栃木県などの事業団研修OB等による伝統のある会で、遠くからは京都府などからもご参加いただいております。平成4年の第1回開催から今年で30回目を迎えました。私も渡邊先生からお声がけいただき数年前から参加させていただいております。毎年10月頃に宮城、山形、福島各温泉地で開催され、大勢の方々が参加し、夜中まで研修の思い出話や近況報告など話が盛り上がり、寝不足になるほど楽しい会が開かれます。今後も下水

道事業団から生まれた「縁」を大切に宮山福会に参加させていただきますと思っておりますので宜しくお願いいたします。

渡邊先生との出会いからいろいろな方との繋がりができ、新たな「縁」が生ま

れたことは私にとっての財産であり、渡邊先生には深く感謝いたします。最後になりますが、日本下水道事業団研修センターの益々のご発展と研修生皆様の健康を心より祈念申し上げます。



第30回宮山福会 山形県村山市 暮点温泉クアハウス暮点にて (R7.10.17)



JS研修と 福岡みずのわ会について

福岡市道路下水道局
建設部中部下水道課

伊藤 大剛



この度は、「研修みずのわ」に寄稿させていただきました。ありがとうございます。私は、令和6年度の10月に実施された「管きょ設計II」研修に、17日間参加させていただきました。研修初日

には、先輩方もお世話になつている渡邊先生のもとへご挨拶に伺つた際、他都市から参加された方々と昼食をご一緒する機会を設けていただきました。このようなご配慮により、初対面の方々とも自然に会話が生まれ、早い段階で打ち解けることができました。他の研修生との距離が縮まったことで、その後の講義やグループワークにおいても意見交換を活発に行うことが



R6「福岡みずのわ会」の集い

でき、充実した研修生活を送ることができました。限られた研修期間の中で、最初にこうした交流の機会を頂戴できたことは、研修への理解を深めるうえで非常に有意義であったと感じております。渡邊先生の細やかなご配慮と温かいお心遣いに、心より御礼申し上げます。

本研修は、下水道法第22

条に定められた管きよ設計資格者として、適切な工法の選定および設計が可能となる技術者の育成を目的とされており、管きよ設計に関する基礎から応用までを体系的に修得できる、非常に充実した内容でした。まず最初に、管きよ設計に関する自らの課題についてのディスカッションが実施され、研修生間での意見交換を通じて、全国各地の課題や取り組みについて理解を深めることができ、視野を広げる貴重な機会となりました。

講義では、下水道の役割や事業の現状、処理方式の概説に始まり、管路施設の設計、耐震設計、断面設計、施工法の選定、土留め工の設計、推進工法の設計および積算演習など、実務に直結する内容が網羅的に取り上げられました。講師の先生方は、現場での豊富な経験をもとに、理論だけでなく実践的な視点から

も丁寧に解説してください、理解を深めることができました。現在は、膨大な老朽管渠ストックを更新しており、管更生工法を採用することが多いため、経験機会が少ない基本的な開削工法による管布設の設計は、管種や土留め工法の選定など、大変貴重な内容でした。中でも印象に残ったのは、推進工法に関する講義です。内容としては初歩的なものだったのかもしれませんが、これまで推進工法を設計した経験のない私にとっては非常に新鮮であり、推進工法の種類や基本的な設計手法、積算の考え方等を中心に学ぶことができました。また、講義を通じて技術的な奥深さを感じるとともに、現場条件に応じた工法選定の重要性を改めて認識することができました。今後は「推進工法研修」にも参加し、より専門的な知識を習得したうえで、設計業務に的確に反映

させてまいりたいと考えております。

また、土質および地盤工学に関する講義では、設計・施工上の地盤に関する知識を深めることができ、室内試験の実習を通じて、理論と実践の両面から理解を深めることができました。実習では、実際の試験機器を用いた操作を体験することができ、机上で得た知識が現場でどのように活かされるかを実感する貴重な機会となりました。さらに、下水道行財政や補助事業に関する講義では、制度面の理解が進み、設計のみならず事業計画や予算確保の観点からも重要な知見を得ることができました。これらの講義を通じて、技術だけでなく制度や運営面にも目を向けることの大切さを改めて認識いたしました。

研修後の令和7年3月には渡邊先生を囲んで福岡みずのわ会が開催され、私も初めて参加させていただきました。

き、本市及び他都市の研修生OBの方々や意見交換を行う貴重な機会となりました。地域の課題や苦勞、取り組みについて多くの学びを得ることができ、非常に有意義な時間であったと感じております。こうした交流を通じて得た刺激は、今後の業務に積極的に活かしてまいりたいと考えております。

このような学びと交流の機会を得ることができたことに深く感謝申し上げますとともに、研修でお世話になりました日本下水道事業団研修センターの先生ならびに講師の方々、他の研修生の皆様に、心より御礼申し上げます。末筆ながら、皆様の益々のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。今後とも、研修で得た知識と経験を活かし、業務の質の向上に努めていく所存ですので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



熊本みずのわ会 「水の輪がつなぐ人と技術」

熊本県熊本市上下水道局維持管理部
水道維持課漏水防止班

主任技師 太田 ひとみ



私が、研修センターの研修を受講したのは、平成25年度、平成26年度の2回で、どちらも渡邊先生のコースではありませんでした。ご縁（上司からのご指導）があり、渡邊先生には挨拶に伺っておりました。渡邊

先生の研修コースの受講生ではなかった私が、「熊本みずのわ会」に初めて参加したのは、平成26年度のことでした。それは、入庁、下水道共に2年目の若手職員だった私にとって、熊本県内の下水道職員が一堂に集まるこの集まりは、まさに「水の輪」のような温かさを感じた。熊本みずのわ会は、熊本県内の市町村職員を中心に、下水道事業団の研修を

受けたOB・OGが集まり、技術や経験、思い出を共有し合う交流の場です。渡邊先生の訪熊に合わせて毎年3月に開催されるこの会は、平成18年度の発足からまもなく20年を迎え、今では20名以上が集う大き

な「輪」となりました。現在では県内の多くの自治体に参加し、参加者同士の貴重な交流の場となっております。私は産休・育休や水道部門への異動が重なり、しばらくこの会から離れていま



1日目の懇談会



2日目の懇談会

した。仕事と育児の両立に追われる日々の中で、熊本みずのわ会の存在は少し遠いものになっていましたが、下水道の先輩職員に「そろそろ、熊本みずのわ会の時期ですか？」と尋ねたことをきっかけに、令和5年度から再び参加するようになりました。5年以上のブランクがあったにもか

わらず、渡邊先生や玉名市役所の早上先輩をはじめ、皆さんが私のことを覚えていてくださったことが本当に嬉しく、温かい気持ちになりました。

そして何より、渡邊先生の変わらない明るさと元気な姿に、毎回お会いするたびにパワーをいただいています。先生の存在が、みずのわ会の中心であり、私たちをつなぐ大きな力になっていることを実感します。

熊本みずのわ会を通じて地域とのつながりを感じる中で、熊本市の取り組みもご紹介したいと思います。熊本市は、全国初となる「水道（消火栓）マンホールカード」を発行し、大きな話題となりました。令和7年（2025年）4月には、水道事業

100周年を記念して、ロアツ熊本、熊本ヴォルターズ、フォレストリヴズ熊本、火の国サラマングードズの4つの地元プロスポーツチームとコラボしたマンホールカードが登場しました。熊本県内では現在19種類のマンホールカードが発行されており、熊本市をはじめ、玉名市、八代市、荒尾市、水俣市、宇城市、苓北町、和水町など、県内各地の自治体がそれぞれの特色を活かしたデザインで参加しています。漫画『ONE PIECE』の麦

わらの一味像を巡る『ワンピース旅』が世代を超えて人気を集めているように、マンホールカードも幅広い年代に親しまれています。県内を巡りながらカードを集める『マンホールカード旅』は、観光と趣味を兼ねた楽しい取り組みとしておすすめです。

こうした、世代を超えた楽しみという点では、熊

本みずのわ会も同じです。市役所を退職された先輩方から、20代の若手職員まで、世代を超えた交流が生まれていることを嬉しく感じています。水道部門に異動してからは下水道の若手職員と話す機会が減ってしまいましたが、この会のおかげで再びつながりを持つことができました。

これからも、この「輪」がさらに広がり、熊本から全国へと技術者の絆が広がっていくことを、心から願っています。

最後に、日本下水道事業団研修センターの皆様、そして全国の「みずのわ」会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



令和8年度 戸田研修(対面集合) 実施計画【公務員研修】

コース	専攻名	クラス	研修期間	研修回数	受講料(円)
計画設計	下水道事業入門	初級	4	1	130,600
	下水道計画入門	初級	5	1	142,300
	下水道事業の計画の策定・見直し	-	5	2	142,300
	下水道の浸水対策	-	3	2	119,000
	●総合的な雨水対策(課題と対策)	-	4	2	130,600
	アセットマネジメント・ストックマネジメント入門(処理場施設編)	-	3	1	119,000
	アセットマネジメント・ストックマネジメント入門(管路施設編)	-	3	1	119,000
	アセットマネジメント・ストックマネジメント(実務編)	-	4	2	130,600
	ハード・ソフト一体で考える下水道事業の広域化・共同化	-	3	2	119,000
	下水道事業における危機官理と災害対策	-	3	1	119,000
	技術者のための公営企業会計-財務諸表活用法-	-	3	1	119,000
経営	下水道の経営	初級	4	1	130,600
	消費税(課題解決型研修)	-	4	1	145,200
	受益者負担金(課題解決型職場融合研修)	-	3	1	154,000
	下水道使用料	-	3	1	119,000
	経営戦略(課題解決型研修)	-	3	1	132,000
	接続・水洗化促進と情報公開	-	3	1	119,000
実施設計	管さよ基礎	初級	17	1	226,200
	管さよ設計Ⅰ	初級	12	4	198,400
	管さよ設計Ⅱ【指定講習】	(指)	17	5	226,200
	推進工法	-	10	2	177,300
	管更生の設計と施工管理	-	4	2	130,600
	設計照査(会計検査)	-	5	1	142,300
	排水設備工事の実務	-	3	1	119,000
	処理場設計Ⅰ	初級	5	1	142,300
	処理場設計Ⅱ【指定講習】	(指)	12	1	198,400
	処理場設備の設計(機械設備)	-	5	1	142,300
	処理場設備の設計(電気設備)	-	4	1	130,600
設備の改築更新	-	3	1	119,000	
工事監督管理	工事管理【指定講習】	(指)	12	1	198,400
維持管理	管さよの維持管理	初級	12	2	198,400
	管さよの点検・調査	-	5	1	142,300
	処理場管理の基礎	初級	4	1	130,600
	処理場管理Ⅰ	初級	11	3	189,000
	※処理場管理Ⅱ【指定講習】	(指)	10	2	177,300
	電気設備の保守管理	-	3	1	119,000
	※水質管理Ⅰ	初級	10	1	177,300
	※水質管理Ⅱ	-	5	1	142,300
	事業場排水対策	-	10	1	177,300
	※水処理施設の管理指標の活かし方	-	2	1	60,700
	※水質管理のトラブル対応	-	2	1	60,700
	※窒素・りん処理のトラブル原因と対策	-	5	1	142,300
	★施設設計に反映する維持管理情報の利活用 ※	-	2	1	60,700
官民連携	ウォーターPPP入門	初級	3	1	119,000
	ウォーターPPP導入の準備と手続き	-	3	2	119,000
	処理場の包括的民間委託における履行確認	-	2	1	60,700

宿泊施設として新寮室棟又は管理本館棟の2施設があり、応募状況によりコースごとに宿泊する施設の違いが生じるため宿泊費用も異なります。

(※女性の研修生は新寮室棟への宿泊となります)

1. 新寮室棟に宿泊する場合：受講料の他に宿泊費として1泊あたり7,000円が必要になります。なお、7,000円には食費1,770円(朝食460円・昼食570円・夕食740円)が含まれています。
2. 管理本館棟に宿泊する場合：受講料の他に宿泊費として1泊あたり6,500円が必要になります。なお、6,500円には食費1,770円(朝食460円・昼食570円・夕食740円)が含まれています。
3. クラス欄の(指)は、指定講習を示します。

下水道 技術検定

下水道技術検定及び 下水道管理技術認定試験について

研修センター管理課

1. 下水道技術検定等の区分、試験科目、試験方法について

(1) 下水道技術検定

区分、試験科目、試験方法については、以下の表のとおりです。

検定区分		検定の対象	試験科目	試験方法
下水道 技術検定	第1種 技術検定	下水道の計画設計を行うために必要とされる技術	下水道計画、下水道設計、施工管理法、下水処理及び法規	多肢選択式及び記述式
	第2種 技術検定	下水道の実施設計及び工事の監督管理を行うために必要とされる技術	下水道設計、施工管理法、下水処理及び法規	多肢選択式
	第3種 技術検定	下水道の維持管理を行うために必要とされる技術	下水処理、工場排水、運転管理、安全管理及び法規	多肢選択式

(2) 下水道管理技術認定試験

区分、試験科目、試験方法については、以下の表のとおりです。

試験区分		試験の対象	試験科目	試験方法
下水道 管理技術 認定試験	管路施設	管路施設の維持管理を適切に行うために必要とされる技術	工場排水、維持管理、安全管理及び法規	多肢選択式

2. 合格者の利点

(1) 有資格者になるための実務経験年数が短縮できます

下水道の設計、工事の監督管理及び維持管理については、下水道法及び下水道法施行令により、学歴等に応じた一定の実務経験を有する者に行わせなければならず、事業を実施するにはこのような有資格者を確保する必要があります。

技術検定（第1種、第2種、第3種）は有資格者の早期確保などを目的に創設された制度で、合格した場合、下水道法第22条の資格取得について必要とされる実務経験年数を短縮する特例が認められています。

例えば、大学の土木工学科（下水道工学の履修無し）を卒業した方が計画設計の有資格者になるためには、下水道を含む関連インフラ（上水道、工業用水道、河川、道路）の実務経験を合算した年数が6年以

上必要になりますが、第1種技術検定に合格すると、学歴によらず3年に短縮することができます。
(別表「下水道法施行令15条及び同15条の3に定める資格要件」を参照)

(2) 下水道処理施設管理技士の登録条件になっています

下水道維持管理業者登録規程により登録を受けようとする場合、営業所ごとに、維持管理業務の技術上の管理をつかさどる専任の「下水道処理施設管理技士」を置く必要があります。

第3種技術検定に合格し、学歴等に応じた所定の実務経験年数を有することで、「下水道処理施設管理技士」になることができます。

(3) 下水道管路管理技士試験の受験資格になっています

認定試験は、下水道管路施設の維持管理業務に従事する技術者の技術力を公平に判定し認証することにより、管路施設維持管理の健全な発展と技術者の技術水準の向上を図り、もって下水道の適正な維持管理に資することを目的とした制度です。

日本下水道管路管理業協会が実施する下水道管路管理技士試験のうち「総合技士」及び「主任技士」部門において、認定試験（管路施設）の合格が受験資格のひとつとされています。なお、技術検定（第1種、第2種、第3種のいずれか）の合格者であることも同様に受験資格になっています。詳細は、(公社)日本下水道管路管理業協会のホームページをご確認ください。

3. 令和7年度の実施結果

令和7年11月9日（日）に全国10都市で実施した第51回下水道技術検定のうち、第2種及び第3種並びに第39回下水道管理技術認定試験（管路施設）の合格者を令和7年12月17日（水）に発表しました。

発表の方法は、同日、合格者の受験番号を日本下水道事業団研修センター（埼玉県戸田市下笹目5141）の庁舎内に掲示するとともに、日本下水道事業団のホームページにも掲載いたしました。

(<https://www.jswa.go.jp/kentei/gokakuhappyo.html>)

なお、合格者には「合格通知書」をメールにてお送りする他、「合格証書」を簡易書留にて郵送いたしました。

【第2種、第3種技術検定及び下水道管理技術認定試験（管路施設）の合格者の状況】

技術検定第2種の受検者は931人、合格者は317人であり、合格率は34.0%となっています。第3種の受検者は4,377人、合格者は1,688人、合格率は38.6%となっています。

下水道管理技術認定試験（管路施設）の受検者数は1,787人、合格者は647人であり、合格率は36.2%となっています。

第51回下水道技術検定（第2種、第3種）・第39回下水道管理技術認定試験合格者数等一覧

第2種技術検定			第3種技術検定			認定試験（管路施設）		
受検者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率	受検者数	合格者数	合格率
931名	317名	34.0%	4,377名	1,688名	38.6%	1,787名	647名	36.2%
(845名)	(258名)	(30.5%)	(4,434名)	(1,498名)	(33.8%)	(1,572名)	(683名)	(43.4%)

注（ ）内は前年度の実績

【第2種、第3種技術検定及び下水道管理技術認定試験（管路施設）の合格基準点】

第51回下水道技術検定（第2種、第3種）及び第39回下水道管理技術認定試験（管路施設）における合格基準点については、次表のとおりです。

第51回下水道技術検定及び第39回下水道管理技術認定試験合格基準一覧

試験区分		試験方法	出題数	満点	合格基準点
下水道 技術検定	第2種	多肢選択式	60問	60	44
	第3種	多肢選択式	60問	60	45
認定試験	管路施設	多肢選択式	50問	50	37

なお、第1種技術検定の合格発表については、令和8年2月4日（水）に行う予定です。

※紙面の取りまとめの関係から、第1種技術検定の結果については、

技術検定のホームページ、<https://www.jswa.go.jp/kentei/index.html> をご確認ください。

4. 次回の受検に向けて

下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験は、例年11月に全国の主要都市（令和7年度は10か所で実施）にて実施されています。毎年、全国から8千人を超える募集（令和7年度は8,625名）があり、これまでの合格者は、累計10万人以上となっており、その技術力が下水道界を支えています。

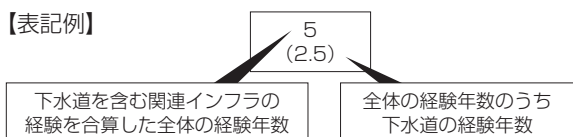
特に近年は、技術者不足の影響もあり、そのニーズは、依然として高い傾向にあります。今回は是非、あなたも受検にチャレンジされてみてはいかがでしょうか。

<別表>

■下水道法施行令第15条及び同第15条の3に定める資格要件

同第15条の3 下水道法施行令 第15条及び 第15条の3	区 分		要 件		資格取得に必要な下水道技術 に関する実務経験年数（注1）			
	卒業又は修了した学校等	卒業又は修了した学科等	履修した学科目等	計画設計	監督管理等		維持管理	
					処理施設 ポンプ施設	排水 施設	処理施設 ポンプ施設	
第1号	新制大学	土木工学科、衛生工学科 又はこれらに相当する課程	下水道工学	5 (2.5)	2 (1)	1 (0.5)	2 (1)	
	旧制大学	土木工学科又はこれらに 相当する課程	—					
第2号	新制大学	土木工学科、衛生工学科 又はこれらに相当する課程	下水道工学に関する 学科目以外の学科目	6 (3)	3 (1.5)	1.5 (1)	3 (1.5)	
		機械工学科、電気工学科 又はこれらに相当する課程	—	6 (3)	3 (1.5)	1.5 (1)	3 (1.5)	
第3号	短期大学 高等専門学校 旧制専門学校	土木科又はこれに相当する 課程	—	8 (4)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	5 (2.5)	
		機械工学科、電気工学科 又はこれらに相当する課程	—	8 (4)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	5 (2.5)	
第4号	新制高等学校 新制中等教育学校 旧制中等学校	土木科又はこれに相当する 課程	—	10 (5)	7 (3.5)	3.5 (2)	7 (3.5)	
		機械科、電気科又はこれら に相当する課程	—	10 (5)	7 (3.5)	3.5 (2)	7 (3.5)	
第5号 第6号	日本下水道事業団法施行令 第4条第1項に定める技術検定	第1種技術検定合格	—	3 (0.5)	2 (0.5)	1 (0)	—	
		第2種技術検定合格	—	—	2 (0.5)	1 (0)	—	
		第3種技術検定合格	—	—	—	—	2 (0)	
第7号	建設業法第27条による第二次検定 の合格者（一級土木施工管理技士）	土木施工管理に合格した者	—	3 (1.5)	1.5 (1)	—		
第8号	技術士法による二次試験	下水道を選択科目として上下水道部門に合格した者	—	0 (0)		0 (0)		
		水質管理又は廃棄物・資源循環を選択科目として衛生 工学部門に合格した者	—	—	—	0 (0)		
第9号	上記に定める学歴のない者	—	—	10 (5)	5 (2.5)	10 (5)		
第10号	新制大学の大学院	5年以上在学（卒業）	下水道工学	2 (1)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)	
	新制大学の大学院又は専攻科 旧制大学の大学院又は研究科	1年以上在学	下水道工学	4 (2)	1 (0.5)	0.5 (0.5)	1 (0.5)	
	短期大学の専攻科	1年以上在学	下水道工学	7 (3.5)	4 (2)	2 (1)	4 (2)	
	国土建設学院等	上下水道工学科	—	8 (4)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—	
	外国の学校	日本の学校による学歴、経験年数に準ずる。		—	—	—	—	
	指定された試験	下水道管理技術認定試験（処理施設）		—	—	—	2 (1)	
	指定講習	国土交通大学校	専門課程下水道科研修		—	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—
日本下水道事業団		下水道の設計又は工事の監督管理資格者講習会		—	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—	
		下水道維持管理資格者講習会		—	—	—	5 (2.5)	

【表記例】



<関連インフラ>

- ・計画設計及び実施設計・工事の監督管理の場合
下水道、上水道、工業用水道、河川、道路
- ・維持管理の場合
下水道、上水道、工業用水道、し尿処理施設

- 「計画設計」とは、事業計画に定めるべき事項に関する基本的な設計をいう。
- 「監督管理等」とは、実施設計（計画設計に基づく具体的な設計）又は工事の監督管理（その者の責任において工事を設計図書と照合し、それが設計図書の通りに実施されているかどうかを確認すること。）をいう。
- 「維持管理」とは、処理施設等の運転管理等をいう。

研修センターの歩み

平成4年	4・1	第9代本部長 清野 圭造就任
	4・1	第11代研修部長 星隈 保夫就任
	11・1	事業団設立20周年を迎える
平成5年	7・1	常任参与 北井 克彦就任
平成6年	7・1	第10代本部長 小林 紘就任
	10・7	研修修了生2万5千人達成
平成7年	7・5	総合実習棟竣工
平成8年	4・1	第12代研修部長 竹石 和夫就任
平成9年	3・20	本館改修工事竣工
	9・29	研修修了生3万人達成
	11・1	事業団設立25周年を迎える
平成10年	7・14	第11代本部長 黒沢 宥就任
	8・1	参与 内田 信一郎就任
平成11年	4・1	第13代研修部長 大嶋 吉雄就任
平成12年	6・30	研修修了生3万5千人達成
	7・3	第14代研修部長 渡部 春樹就任
平成13年	1・20	第12代本部長 中橋 芳弘就任
	4・16	参与 福智 真和就任
平成14年	4・1	第15代研修部長 篠田 孝就任
	11・1	研修修了生4万人達成 事業団設立30周年を迎える
平成15年	4・16	参与 色摩 勝司就任
	10・1	「特殊法人整理合理化計画」に基づき、 日本下水道事業団が地方共同法人となる
平成16年	4・1	機構改革により「研修センター」発足 第16代研修センター所長 大嶋 篤就任
平成17年	4・1	第17代研修センター所長 成田 愛世就任
	8・1	第13代本部長 安藤 明就任
	10・21	研修生4万5千人達成
平成19年	4・1	第18代研修センター所長 高島英二郎就任
	11・1	事業団設立35周年を迎える
平成20年	1・19	研修修了生5万人達成
	1・30	研修修了生5万人達成記念行事開催
平成21年	7・14	第19代研修センター所長 藤生 和也就任
平成22年	4・1	第14代本部長 村上 孝雄就任
	4・22	研修修了生5万5千人達成
	6・10	本館耐震化工事着手
	8・3	研修業務検討委員会設置
	3・11	東日本大震災

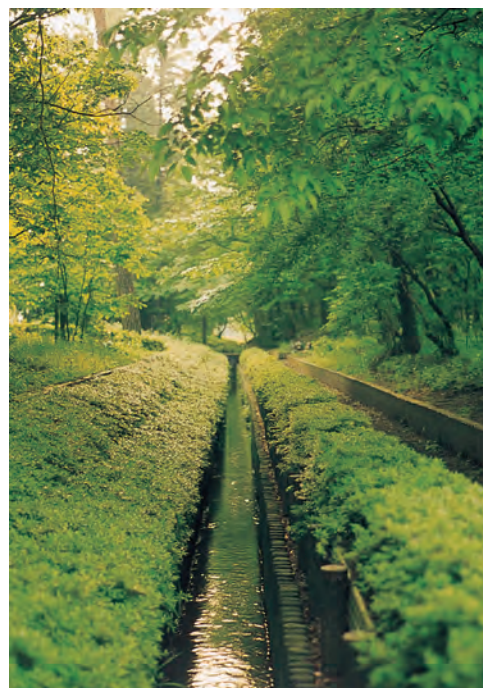
昭和47年	11・1	下水道事業センター発足 初代研修部長 岩崎 保久就任
昭和48年	2・6	研修部で研修開始
	5・	プレハブ校舎完成
	12・27	試験研修本館着工
昭和49年	1・16	研修会報（研修みずのわ）創刊
	12・1	第2代研修部長 丸山 速夫就任
昭和50年	3・25	試験研修本館竣工
	4・16	初代試験研修本部長 池田 一郎就任
	8・1	日本下水道事業団発足 第2代本部長 岡崎 忠郎就任
昭和51年	3・14	第1回下水道技術検定試験実施
	8・1	第3代研修部長 橋本 定雄就任
	11・21	第2回検定試験実施（以後毎年11月中旬実施）
昭和52年	2・16	第3代本部長 上田 伯雄就任
	4・1	第4代研修部長 武田 篤夫就任
昭和53年	4・1	第4代本部長 遠藤 文夫就任
	11・16	常任参与 安田 靖一就任
昭和54年	6・9	第5代研修部長 野端 利治就任
昭和55年	10・1	第5代本部長 卜部 壮一就任
昭和56年	3・31	研修修了生（延べ）7,603人となる
昭和57年	6・5	第6代研修部長 伊阪 重信就任
	11・1	事業団設立10周年を迎える
昭和58年	4・1	常任参与 藤井 秀夫就任
	8・29	研修修了生1万人達成
	11・16	第6代本部長 中村 瑞夫就任
昭和59年	4・12	試験研修本部を技術開発研修本部 に名称変更する。
昭和60年	1・1	第7代研修部長 真船 雍夫就任
	3・27	新厚生棟完成
昭和61年	10・1	第7代本部長 苦米地 行三就任
昭和62年	3・31	研修修了生（延べ）14,311人となる
昭和63年	1・1	第8代研修部長 石川 廣就任
	4・1	第8代本部長 千葉 武就任
平成元年	9・1	常任参与 村上 仁就任
平成2年	3・31	本館改修工事竣工
	6・11	第9代研修部長 亀田 泰武就任
平成3年	7・16	第10代研修部長 石川 忠男就任
	7・26	研修修了生2万人達成

平成23年	4・1	機構改革により技術開発研修本部長を廃止し、研修・国際担当理事を設置。 初代理事 村上 孝雄就任
	9・21	臨時研修「地震対策」実施
平成24年	4・17	研修修了生60,000人達成
	11・1	事業団設立40周年を迎える
	11・22	臨時研修「放射能対策」実施
	3・29	本館耐震化工事終了
平成25年	4・1	第20代研修センター所長 藤本 裕之就任
	11・1	第2代研修・国際担当理事 野村 充伸就任
平成26年	4・1	第21代研修センター所長 花輪 健二就任
平成27年	11・1	第3代研修・国際及び西日本担当理事 畑田 正憲就任
平成28年	4・1	第22代研修センター所長 細川 顕仁就任
	7・1	研修修了生70,000人達成
平成29年	10・4	新寮室棟基本設計着手
	11・1	事業団設立45周年を迎える
平成30年	3・16	新寮室棟基本設計完了
	4・1	第23代研修センター所長 松村 弘之就任
	5・22	新寮室棟詳細設計着手
	8・21	研修修了生75,000人達成
令和元年	9・27	新寮室棟詳細設計完了
	11・1	第4代研修・国際担当及び東日本担当理事 畑 恵介就任
	11・30	新寮室棟（仮称）着工
令和2年	2・13	研修修了生80,000人達成
	4・1	第24代研修センター所長 水津 英則就任
令和3年	11・1	第5代研修・国際及び東日本担当理事 渡辺 志津男就任
令和4年	4・1	新寮室棟供用開始
	11・1	事業団設立50周年を迎える
令和5年	4・1	第25代研修センター所長 豆谷 竜太郎就任
令和6年	4・1	研修講師登録制度創設 各研修のWEB受付を開始
	9・27	研修修了生90,000人達成
令和7年	4・1	第6代研修・国際戦略及び東日本担当理事 佐々木 健就任 第26代研修センター所長 井上 剛就任



黒目川沿い桜

新 埼 座 玉 市 県



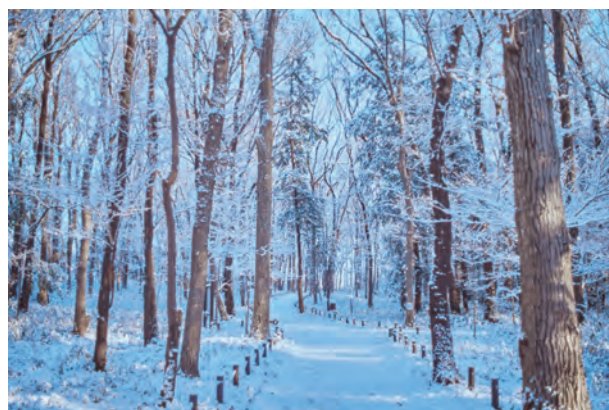
野火止用水



睡足軒(室内)



大江戸新座祭り



冬の雑木林(野鳥の森)

編集後記

このたび、2年ぶりに研修センターへの配属となり、再び「みずのわ」の編集に携わらせていただきました。コロナ禍を経て、再び、多くの研修生が研修センターにお越しいただける状況を間近で見ると、大変感慨深いものがございます。

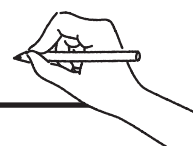
コロナ禍の中に取り組んだオンライン研修やオンデマンド研修も研修生の皆様に馴染んでいただいている中ではありますが、より多くの研修生のお役に立てるよう、今後とも、様々な新しい取り組みに努めて参ります。

本号は、「みずのわ第59号」ということで、次号はいよ

いよ60号となります。これからも「みずのわ」の輪が引き継がれていくことを願いつつ、本号への執筆者様をはじめ、歴代の研修生の皆様、研修センターの研修業務にご協力を賜りました皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご指導・ご鞭撻を頂きますと幸甚に存じます。何卒、よろしくお願い申し上げます。



研修企画課
課長代理 三浦 英和



「みずのわ」の名前の由来

滑らかな水面に落とした一滴のしずくがつくる小さな輪が大きく広がる様から、研修生の輪が一人から全国へ、一都市から全国の都市へと大きくなつながら生まれるように、との期待を託したものです。



睡足軒の森(紅葉)

機関誌「研修みずのわ」 第59号

令和8年1月発行 第59号

発行 地方共同法人 日本下水道事業団 研修センター
〒335-0037 埼玉県戸田市下笹目5141

TEL 048-421-2692

FAX 048-422-3326

印刷 株式会社石井印刷